

# スブレットについて

教育学研究科教科教育専攻音楽教育専修声楽分野

06GP218 藤田 宗世

指導教員 杉原 かおり

# 目 次

はじめに …2

第一章 スブレットの起源 …3

第二章 スブレットの性格分析 …6

第一節 《奥様女中》のセルピーナ …6

第二節 《ドン・ジョヴァンニ》のツェルリーナ …19

第三節 《コジ・ファン・トゥッテ》のデスピーナ …36

第四節 《フィガロの結婚》のスザンナ …58

第三章 結論 …84

参考文献…90

はじめに

「スブレット」に始めに興味を持ったのは、モーツァルトのオペラ《ドン・ジョヴァンニ》のツェルリーナのアリアを勉強したことがきっかけだった。ツェルリーナはこのオペラの中で主役ではないが、登場する女性役の中で最も魅力的で、脇役にしてはとても印象的な人物だと思った。その後、モーツァルトのオペラのスブレットのアリアを何曲か勉強したが、それぞれ異なる人物にもかかわらず、演じ分けるのが難しいと感じていた。それはツェルリーナや《コジ・ファン・トゥッテ》のデスピーナ、《フィガロの結婚》のスザンナに、それぞれ似た部分があるからである。それでは一般的にスブレットと呼ばれる役柄は全て同じような性質を持っているのか、またそもそもスブレットという枠組みがどこから来たのかということに疑問を持つようになった。

また、ツェルリーナだけでなく、デスピーナやスザンナもオペラの中では、所詮脇役という印象ではなく、脇役ながら重要な役目を担い、物語にはなくてはならない存在である。本論文では、イタリア語で書かれたオペラに限定し、スブレットが登場するいくつかのオペラを取り上げ、登場人物達の台詞からその性格を分析、比較し、スブレットの持つ魅力に迫りたい。

## 第一章 スブレットの起源

スブレット (soubrette(仏)) とは、『オペラ辞典』によると「オペラやオペレッタで、快活でういういしい若い娘を演ずるソプラノの役柄」(浅香淳、1993、p.201)、また『クラシック音楽事典』には、「喜劇に登場する小粋で気の利いた小間使いや侍女の役」(戸口幸策、2001、p.270) という説明がなされている。加えて、『オックスフォード オペラ大事典』によれば、スブレットとは、「ずるい、あるいは抜け目ない」を意味する古いフランス語の *soubret* に由来してあり、「イタリア・オペラではセルヴェッタ *servetta* という用語も用いられる。⇒ダミジェッラ」という説明がなされている。そこで、ダミジェッラ (*damigella* (伊)) という語の項目を見てみると、「少女」の意。ダミジェッラはコンメディア・デッラルテの若い召使いおよび腹心役から発展したもので、スブレットの原型となった。一般に愛らしく生意気で、浮薄で、彼女より上流の多くの登場人物よりはかなり抜け目ない。」(ジョン・ウォラック、ユアン・ウエスト、1996、p. 338) と書かれている。これらから、スブレットとは、コンメディア・デッラルテの若い召使い役から発展したもので、喜歌劇において侍女や小間使いなどの若い娘役を示す言葉であり、快活で愛らしく、しかし生意気で抜け目ないという性格設定がなされていることが分かる。

では、コンメディア・デッラルテとはなんだろうか。コンメディア・デッラルテ (*commedia dell' arte* (伊)) の起源については、「諸説があって一定しないが、16 世紀の初めに北イタリアで起った」(『演劇百科大事典第二巻』、1990、p. 520) とする説明や、「16 世紀後半にイタリアで成立」(『万有百科大事典 3 音楽 演劇』、1977、p. 213)、また、「1550 年ごろ

に誕生した」(アラダイス・ニコル、浜名恵美訳、1898、p. 12)とも伝えられ明確ではないが、16世紀以降であることには間違いないようだ。しかし、コンスタン・ミック(1987)は、コンメディア・デッラルテという名称自体は比較的最近つけられたものであり、それ以前は、筋立て喜劇や仮面劇、フランスではイタリア喜劇という名称で呼ばれていたと述べている。“シェイクスピア、コンメディア・デッラルテ、そしてジャック・カロ”の中で、中野好夫(1977)は、コンメディア・デッラルテの4つの主な特徴を挙げている。まず、大道芸、大道芝居として起こったことである。その一座が各地を周りながら、典型的な「庶民演劇」を見せていたことから始まったのである。次に、職業役者により上演されていたことを挙げているが、「庶民演劇」とはいえ、「演技力訓練を叩きこまれた専門」の役者によって一座は結成されていた。ニコル(1989)は、そもそもコンメディア・デッラルテの「アルテ(arte)」という言葉の意味には今日では「職業」の語が当てられ、さらに『特殊な能力』や『独特の才能』といった含みがあることや、中には「俳優を代々の家業とした一族」も存在していたことも指摘している。そして中野が三つ目の特徴として挙げているのが、即興で演じられていた点である。台本はなく、代わりに筋書(ソジェット)と言われるものに従って俳優は劇を進める。劇作家のアンドレア・ペッルッチは、『ソジェットとは、ある決まったテーマについてひとつながりの場面をざっと書いたものにすぎない。筋立て、すなわち即興で演じる役者が何を言い、何をしなければならないかを簡潔に指示し、幕割りと場面割りを定めたもの』(ミック、梁木靖弘訳、1987、p. 73)と定義しており、その筋書に沿って、役者は即興でお互いに相手の台詞にうまく調和する台詞を述べながら、対話を生み出し物語を進行させるのである。そして、中野が「きわめて重要な特徴」とし

て挙げているのが、俳優が専門的に一つの役柄を演じ続ける点である。また、コンメディア・デッラルテが、「仮面劇」と呼ばれていたことから分かるように、仮面を用いていた点なども特徴の一つとして挙げられるのではないだろうか。

このコンメディア・デッラルテのキャラクターで登場する小間使い役が、なぜ喜劇からオペラに登場するようになったのかを明らかにする。コンメディア・デッラルテはヨーロッパ全体に普及し、特にフランスで流行した。しかし、コンメディア・デッラルテの劇団がパリで活動が続けていくためには、大衆の要求に合うように作り変える必要があった。ニコル（1989）は、それはイタリア語を理解できないフランスの観客のためであり、その観客の興味を引くために、パントマイムや身振り、歌、踊り、軽業などの要素を増やしたことを挙げ、俳優の動作や仕草の面白さに重点を置き、即興的に行われる対話の面白さがないがしろにするようになった結果、イタリア語とフランス語を混ぜるようになり、やがては完全にフランス語だけで演じられるようになったこと、また、こうした流れの中で、コンメディア・デッラルテに影響を受けたフランスの劇作家、ボーマルシェやマリヴォーらが、自らの戯曲にそのキャラクターを登場させたと述べている。このように、コンメディア・デッラルテの小間使い役が、多くのフランスの劇作家によってフランス喜劇に取り込まれたことにより、やがてオペラの中にも登場するようになったのである。

次章からは、いくつかのオペラを取り上げ、登場人物たちの言葉に焦点を当て、スプレットの性質が読み取れる記述や表現を抜き出し考察する。

## 第二章 スブレットの性格分析

スブレットが登場する四つのオペラ、ペルゴレージが作曲した《奥様女中》、モーツァルト作曲の《ドン・ジョヴァンニ》、《コジ・フエン・トゥッテ》、《フィガロの結婚》を取り上げ、スブレット以外の登場人物による台詞で、スブレットについて言及している台詞や言葉を抜き出し、スブレットがどのような人物として捉えられているかを考察し、またスブレット自身の台詞からも、彼女がどのような性質を持った人物なのかを分析する。

### 第一節 ペルゴレージ作曲《奥様女中》のセルピーナ

このオペラに登場するのは、主人のウベルト、その女中のセルピーナ、召使いのヴェスポーネの三人だけである。しかし、ヴェスポーネは一言も話さないで、ウベルトの台詞で、特にセルピーナの性格が読み取れる台詞や、セルピーナの性質を説明している言葉を抜き出し、またセルピーナの台詞にも着目する。

ウベルトはセルピーナがチョコレートを持ってくるのをもう三時間も待っている。普段から彼女の遠慮のない振る舞いや横柄な態度にストレスを感じているウベルトは、セルピーナのことを「私の女中」や「小さな召使い」と言い表している。その際女中や召使いを意味する「serva(o)」という単語を使っているが、『伊和中辞典』によれば、軽蔑的なニュアンスを含むため現在一般的には「domestico」や「cameriere」などの単語を用いるそうだ。このことは、ウベルトが女中であるセルピーナへの蔑視と怒りを示しているといえる。

その一方セルピーナを小さい頃から育ててきたために、彼女に対して「私の娘」のようだという思いもあり、愛着がないわけではないようだ。しかし普通の女中として厳しく接してこなかったことが、彼女が女主人のように横柄に振る舞うようになった原因だと後悔している様子も見受けられる。その他には、「高名であらせられる閣下」や「奥様」などの敬称をわざと使ってへりくだった態度を表し皮肉を込めるのだが、セルピーナはそれに応じたり動じたりすることなく、うまくかわされてしまう。しかし、ウベルトも怒りを爆発させ、「悪党」、「無礼者」、「ならず者」などとセルピーナを罵り、また、「なんという厚かましさ！」や「ご立派な上に無礼だ。向こう見ずな。」、「これは他の悪魔より悪意がある。」という台詞からは、彼女の無礼さや図々しさが度を越えており、ウベルトはセルピーナを「私にとって死」であると嘆いている。腹立たしさを乗り越えたウベルトの「お前はあまりにも高い所を飛んでいる。」、「お前は気が狂っている」という言葉には、彼女の言動があまりにも突飛すぎて飽きれる様子が表れている。ここでは、「costei」という言葉が用いられているが、これは「こいつ、この男」を意味する「costui」の単数女性形であり、蔑称であることから、明らかに、ウベルトのセルピーナへの強い怒りと蔑む気持ちが表れている。しかしセルピーナが乱暴な男と結婚すると宣言すると、ウベルトの台詞にはセルピーナを心配し哀れむ気持ちが見られるようになる。徐々にセルピーナに対する愛情が自分の中にあることを確信していくが、そのことに戸惑い「だがしかし私は考えよう…しかし彼女は女中だ…」と言い、ここでも「serva」という言葉を使って、彼女の女中という身分を強調し自分と不釣り合いの存在であることを自分に言い聞かせている。しかし長い間面倒を見てきたことで情が移ってしまい、不憫に思い、彼女の策略にまんまとはまってしまう。

実際に婚約者という男に会ってからの「あの醜い男の腕の中にあのかわいい小鳩が行かなければならないのか」という台詞からは、彼女への愛情が強まっていることが表れている。

次に、セルピーナの台詞から彼女の性格を読み取っていく。ウベルトの召使いヴェスポーネに対してのセルピーナの台詞には、彼女の横柄さと威圧的な態度が表れている。本来同じような身分である二人だが、セルピーナの台詞からは、完全にヴェスポーネを見下している様子を読み取ることができる。特に、「戻りなさい！たとえ御主人様が急いでいても、私は急いでないの、わかった？」という台詞では、自らがヴェスポーネの主人になったような口ぶりで威張り散らし、その後のウベルトとの会話の中では、「私にこのならず者に礼儀作法を教えさせて下さい。」とお願いするが、これは女中という自分の立場を超えた発言である。また身の程知らずにも「尊敬されたいのです、女主人のように、奥様のように、大奥様のように敬われたいのです」という自らの希望を語る。そしてチョコレートを頼んだのに持ってこないことを指摘されると、いつ飲みたいのかと聞き返し、もうお昼だからとさりげなく言っただけ。しかし、それは頼まれてから三時間経っても持っていかなかったセルピーナ自身に原因がある。セルピーナの発言には全く悪びれた様子はなく、掴みどころもないので、ウベルトとの会話が何となく噛み合っていないような印象を受ける。さらに主人を慮るほど自分は不幸になり、虐げられると遠慮も気遣いもない言葉をウベルトに投げかけ、そのことに呵責を持つべきだと責める。怒って出て行こうとするウベルトを引き留めようと、ドアに鍵をかけたり、アリア「怒りんぼさん、私の怒りんぼさん」を歌ってなだめようとする。このアリアの後からセルピーナの狡猾さが徐々に見え始める。それまでは悪意というよりは、飄飄とした態度にウベルトが勝手に苛立ちを募らせている

ように見える。しかし、自分の思惑通りの展開に事が進み始めたことで、「ここでロバが落ちた（罠にかかった）！」と喜ぶ。セルピーナはヴェスポーネにも「このロバは何を笑っているの？」と言う場面があるが、「asino」という単語には「ロバ」の他に「愚か者」の意味もあり、セルピーナはヴェスポーネだけでなく、ウベルトのことも内心では馬鹿にし、からかっていることが分かる。そして自由気ままな言動によりますますウベルトはセルピーナに翻弄されていく。自分とは結婚しないと言うウベルトには、「でもなぜ？私は美しく、優雅で機知に富んでいないの？さあ、見て下さい、愛らしく、陽気で、気高いわ。」と話し、セルピーナの自信が窺える。ウベルトも、セルピーナを「私の美しい女主人」、「あのかわいい小鳩」と言い表していることから、セルピーナがかわいらしく美しい容姿の持ち主であることは間違いないだろう。しかし彼女の図々しさはこれに留まらず、ヴェスポーネには「もしこの策略がそれなりの効果があれば、私が御主人様の花嫁になるわ」と言い、もしその自分に願い事をすればそれは必ず叶うし、「お前はこの家の二番目の主人になるのだから」などと彼を丸め込み、彼女の野望や計算高さを感じることができる。前半ではウベルトを苛立たせ、怒らせるが、後半では彼をなだめ、情に訴えかけるような言い方が増える。たとえば「その間にあなたの愛する花嫁と楽しみ、元気でいて下さい、そしてセルピーナのことを完全に忘れてしまわないでね。」という主人に対する気遣いを見せ、「時折セルピーナを考えて下さい、そして数日は言って下さい、ああ！哀れな娘。彼女はずっと昔かわいかった。」や「私はそれから生意気だった、私を許してね、あなたが私を悪く導いたのよ」などと、自分との長い付き合いを強く主張してウベルトの同情を誘うなど、心理的な効果を狙う狡猾さがよく表れている。そしてヴェスポーネを自分の婚約者に変装させ、

一言も話さないヴェスポーネの特徴を利用して、高額な持参金を用意するようにと彼の言葉としてセルピーナがウベルトに伝える場面では、ウベルトに対して尊大な態度は全く見せず、婚約者の様子を窺う花嫁を演じて見せる。最後には巧みな話術と策略によって念願の妻の座を勝ち取ることに成功する。

前半のセルピーナのウベルトに対する全く悪びれない様子やとらえどころのない態度は、自由奔放さによるもので、彼女の腹黒さや邪気によるものとはあまり感じなかった。突飛な言動にウベルトが一人で憤りを感じているのだという印象が強かった。しかし狡猾な本性がどんどん顕著になる後半では、しおらしい自分を演出してウベルトの心を操る。前半でウベルトをじわじわと苛立たせ、後半でその怒りを爆発させることがセルピーナの計画であるなら、その気ままで奔放な振る舞いも計算され尽くしたものということになる。彼女の狡猾さや野望に気付きながらも、その突飛で自由な発想によりウベルトだけでなく私達までもが翻弄され、セルピーナの思惑通りに事が進むように期待してしまう魅力を持った女性である。

表 I

※ 太字→セルピーナの呼称、下線部→セルピーナの性質を特に表す部分

<u>Aspettare e non venire.</u>	<u>待っているのに来ない、</u>
<u>ben servire e non venire.</u>	<u>よく世話してやっているのに、感謝しない、</u>
<u>son tre ore che aspetto, e la mia serva</u> <u>potrarmi il cioccolatte non fa grazia.</u>	<u>三時間も待っているのに、私の女中はホット</u> <u>チョコレートを持ってこない、</u>
Or sì, che vedo che per esser sì buono costei, la causa son di tutti i mali miei. Serpina...vien domani.	こいつに良くしたことが私の全ての災難の もとだと分かった。 セルピーナ…明日来るのか。
<b>Gran fatto!</b>	大したもんだ！
Io m'ho cresciuta <b>questa serva piccina.</b> L'ho fatta di carezze, l'ho tenuta <b>come mia</b> <b>figlia</b> fosse! <u>Or ella ha preso perciò tanta arroganza.</u> <u>fatta è sì superbona, che alfin di serva</u> <u>diverrà padrona.</u>	私はこの小さな召使いを今まで育ててきた。 彼女をかわいがってきた、自分の娘のように 守ってきたのに！ <u>今彼女はすっかり横柄になってしまい、その</u> <u>ために、ついに事実上、召使いの女主人のよ</u> <u>うに楽しみ、傲慢である。</u>
<b>Brava!</b>	すごい！
<b>Bravissima.</b>	すばらしい！
Che diavol ha <b>v(V)ossignoria</b> <b>illustrissima</b> ?	高名であらせられる閣下、何をしていますので すか。
<u>Sempre in contrasti con te si sta.</u>	<u>いつもお前とは対立する。</u>
<b>Poveretta!</b>	かわいそうな子！
<u>Così è, da dottoressa voi parlate.</u>	<u>お前は女学者のような口調だな。</u>
Non v'arrabbiate, capperi, <u>ha ragione.</u>	腹を立てるな、くそ、 <u>分別を持ちなさい。</u>
Ma lei che diavolo vuol mai dai fatti miei?	しかしあなたは一体私に何を言いたいのか。
<u>Ma parmi questa massima impertinenza.</u>	<u>しかし私にはそのような最大の無礼を言う。</u>
Ora al suo loco ogni cosa porrà vossignoria, chè <b>la padrona mia</b> vuol ch'io non esca.	今、全ての物をあそこにしまってくれ、 <b>私の</b> <b>女主人</b> は私に外出してほしくないのだ。
Scostati, <b>malvagià.</b> Vattene, <b>insolentaccia.</b>	離れてくれ、 <b>悪党。</b> 行け、 <b>無礼者。</b>
Così non dovrò stare a <b>questa manigolda</b> più soggetto.	こんな風にこの <b>ならず者</b> に服従するわけに はいかない。
<u>Tanto ardir!</u>	<u>なんという厚かましさ！</u>

Vattene <b>figlia mia</b> .	出て行け、私の娘よ。
Oh! Questa è per me morte.	ああ！この女は私にとって死だ。
<u>Questo è un altro diavolo più nero.</u>	<u>これは他の悪魔より悪意がある。</u>
<b>Signorina</b> , v'ingannate. <u>Troppo in alto voi volate,</u>	おじょうさん、あなたは間違っている。 <u>あまりにも高いところを飛んでいる、</u>
Ah! Costei mi va tentando;	ああ！こいつは私を試している。
Eh! <u>Matta sei.</u>	ええい！ <u>お前は気が狂っている。</u>
Oh che inbroglio egli è per me!	おおこれは私にとってペテンだ。
Io crederei, che <b>la mia serva</b> adesso, anzi, per meglio dir, <b>la mia padrona</b> , d'uscir di casa mi darà il permesso.	私は、私の女中が、いやむしろもっと正確に言えば、私の女主人は今しがた、私に外出許可を与えてくれると思う。
<u>Or sì che al sommo giunta è sua impertinenza. Temeraria!</u> <u>E di nozze richiedermi ebbe ardir.</u>	<u>ご立派な上に無礼だ。向こう見ずな！</u> <u>私と厚かましくも結婚しようとしている。</u>
Vuole o non vuol <b>la mia padrona bella?</b> ...	私の美しい女主人はしたいのか、したくないのか。
Ci anderà mal <b>la v(V)ostra signoria.</b>	奥様に悪いことが起きますよ。
Ah! <b>Poveretta</b> lei! Per altro io penserei...ma...ella è serva...	ああ！かわいそうな娘！ だがしかし私は考えよう…しかし彼女は女中だ…
Piano, io me l'ho allevata: so poi com'ella è nata...	慎重に、私は彼女を育ててきた、彼女が生まれてから…
<b>quella meschina...</b>	あのかawaiiそうな娘に…
<b>Padrona.</b>	奥様。
si sposerà già <b>questa mia ragazza?</b>	この私の娘とまさか結婚するのですか。
(E in braccio a quel brutto nibbiaccio deve andar <b>quella bella colombina?</b> )	(そしてあの醜い男の腕の中にあのかawaii小鳩が行かなければならないのか。)
<u>Sei matta?</u>	<u>気が狂っているのか。</u>
sì, <b>signora</b>	わかりました、奥様
Ah! <b>Ladra</b> , ti comprendo, mi vuoi tu corbellar.	ああ！泥棒、お前のことは分かっているぞ、お前は私をからかいたいのだ。
<b>Diletta mia sposetta!</b> ...	私の喜びの花嫁！…
Sol tu mi fai goder.	お前だけが私を楽しくさせる。

表Ⅱ

※ ヴェスポーネに対する台詞→ゴシック体、ウベルトに対する台詞→明朝体

L' hai finita? Ho bisogno che tu mi sgridi? E pure io non sto comoda, ti dissi.	終わったの？ お前が私に怒る必要があるの？ 本当に不快だって、あなたに言ったのよ。
E torna! Se il padrone ha fretta, non l' ho io, il sai?	戻りなさい！ たとえ御主人様が急いでいても、私は急いでないの、わかった？
Di nuovo! Oh tu da senno vai stuzzicando la pazienza mia, e vuoi che un par di sciaffi alfin ti dia.	またなの！ ああお前は私の我慢を本気で刺激するのね、とうとうお前は平手打ちをしてほしいよね。
Lasciatemi insegnare la creanza a <b>quel birbo</b> . Adunque perch'io son serva, ho da esser sopraffatta. Ho da essere maltrattata? <u>No signore, voglio esser rispettata, voglio esser riverita come fossi padrona, arcipadrona, padronissima.</u>	私にこのならず者に礼儀作法を教えさせて下さい。 つまり私が女中だから、圧倒される。いじめられるのですか？ <u>いいえ旦那様、尊敬されたいのです、女主人のように、奥様のように、大奥様のように敬われたいのです。</u>
<b>Coteto impertinente</b> ...venne a me...e con modi sì impropri...ma me la pagherai.	生意気なやつが…私のところへ来て…的外れな言い方で…でも覚えておきなさい。
Ed a che fare?	何をさせるために？
Ben, e per questo?	ええ、だから？
E quando voi prenderlo dovete?	いつあなたはそれを飲みたいのですか？
E vi par ora questa? È tempo ormai di dover desinare.	今がその時だと言うのですか。 今はもう昼食をとらなければいけない時間ですよ。
Adunque? Io già nol preparai voi di men ne fareste, padron mio bello, e ve ne cheterete.	つまり？ 私はすでにあなたがそれを飲んでしまったと思って用意しなかった、私の素敵な旦那様、落ち着いてください。
Di chi ride <b>quell' asino</b> ?	<b>このロバ(ばか者)</b> は何を笑っているの？
<u>In somma delle somme per attendere al vostro bene io mal ne ho ricevere?</u>	<u>つまり、あなたの幸せのために私は苦しみを受けなければいけないのですね。</u>
<u>Per aver di voi cura, io, sventurata, debbo</u>	<u>あなたの世話をするせいで、私は、不幸に、</u>

<u>esser maltrattata?</u>	<u>虐げられなければならないのね。</u>
Burlate, sì!	からかっている、そうよ!
<u>E pur qualche rimorso aver dovrete di farmi e dirmi ciò che dite e fate.</u>	<u>私に言ったりさせたりすることにいくらか呵責を持つべきです。</u>
<u>Voi mi state sui scherzi, ed io m'arrabbio.</u>	<u>私に冗談ばかりおっしゃっていると、怒りますよ。</u>
Mirate. Non ne fate una buona, e poi Serpina è di poco giudizio.	見て。 少しは良識があるセルピーナなら、それは良くないと思う。
Non vo'che usciate adesso, gli è mezzodì. Dove volate andare? Andatevi a spogliare.	今出かけないで下さい、お昼ですから。 どこへ行きたいのですか。 服を脱いで下さい。
Oibò, non occorre altro. <u>Io vo' così, non uscirete, io l'uscio a chiave chiuderò.</u>	まあ、他の方法は必要ではない。 <u>私はこのように、外出してほしくないのです、ドアに鍵をかけます。</u>
Eh sì, suonate.	ああそうね、言っていなさい。
Stizzoso, mio stizzoso voi fate il borioso, ma non vi può giovare.  Bisogna al mio divieto star cheto, e non parlare. E...Serpina vuol così. Cred'io che m'intendete, dacchè mi conoscete son molti e molti dì.	怒りんぼさん、私の怒りんぼさん、あなたは威張っている、だけどそれは役に立たないわ。 私の禁止が必要、静かにして、しゃべらないで。 セルピーナはこんな風にしてほしい。 私はあなたが理解すると信じている、あなたはたくさんの日々を共に過ごし、私を知っているのだから。
Così va bene. Andate, e non v'incresca tu ti fermi? Tu guardi? Ti meravigli, e che vuol dir?	結構です。行きなさい、止まらないで。 お前は何を見ているの?驚いているけど、何が言いたいよ。
Che fa...che fate?	何を...何をしているの?
Oh! Qui vi cade l'asino! Casatevi, che fate ben; l'approvo.	あら!ここでロバが落ちた! そうしてください、賛成しますよ。
<u>E prenderete me?</u>	<u>私を妻にするのでしょうか?</u>
Certo.	もちろん。

Affè.	正気よ。
Oh! Voi far e dir potrete che null'altra che me sposar dovrete.	ああ！あなたは私と結婚すれば、言うこともできるしやることもできる。
<u>Voleste dir mia sposa.</u>	<u>私の花嫁と言いたかったのですね。</u>
O morte o vita, così esser dee: l'ho fisso già in pensiero.	死ぬか、生きるか、すでに心の中で固まっています。
<u>Lo conosco a quegli occhietti furbi, ladri, malignetti, che, sebben voi dite no, pur m'accennano di sì.</u>	<u>そのずるそうな、いかがわしい、意地悪そうな目で分かるわ、たとえ「ノー」と言っている、でも、「イエス」を示しているって。</u>
Ma perchè? Non son io bella, graziosa e spiritosa? Su, mirate, leggiadria, vè che brio, che maestà.	でもなぜ？ 私は美しく、優雅で機知に富んでいないの？ さあ、見て下さい、愛らしく、陽気で、気高いわ。
(Ei mi par che va calando.) Via, signore.	(どんどん罠にはまっていくようね。) さあ、旦那様。
Risolvete.	決心してください。
<u>Son per voi gli affetti miei e dovrete sposar me.</u>	<u>私の愛情はあなたのためにある、だから私と結婚しなければいけない。</u>
Or che fatto ti sei dalla mia parte, usa, Vespone, ogn'arte: se l'inganno ha il suo effetto, se del padrone io giungo ad esser sposa.  Tu da me chiedi, e avrai, di casa tu sarai il secondo padrone, io tel prometto.  T'asonderai per ora in quella stanza e a suo tempo uscirai.	今お前は私の側にいる、使いなさい、ヴェスポーネ、あらゆる手を、もしこの策略がそれなりの効果があれば、私が御主人様の花嫁になるわ。 お前は私に頼みごとをし、手に入れる、お前は この家の二番目の主人になるのだから、私はそう約束するわよ。 その時が来るまであの部屋に隠れていなさい。
Ecco, guardate: <u>senza la mia licenza pur si volle vestir.</u>	あら、見えるわ、 <u>私の許可なしで服を着たいのね。</u>
<u>Eh, signor, già per me è finito il gioco, e più tedio fra poco per me non setirà.</u>	<u>ああ、御主人様、もう冗談は終わりですよ、間もなく私によって退屈を感じなくなるわ。</u>
Prenderà moglie già.	もう妻をもらうでしょう。
Cred'io che no.	私もそう信じません。
Cred'io che sì: fa d'uopo ancor ch'io pensi a' casi miei.	私もそう思います、私の立場では考える必要があります。

Io ci ho pensato.	私はそのことについて考えました。
Per me un marito io m'ho trovato.	私に夫を見つけたのです。
Più in un'ora venir suol che in cent'anni.	100 年のところ、一時間で十分です。
L'è un militare.	その人は兵士です。
Il capitan Tempesta.	大尉テンペスタです。
E al nome sono i fatti corrispondenti. Egli è poco flemmatico.	名前は気質に対応します。 少しは冷静です。
Anzi è lunatico.	むしろ風変わりな人。
Va presto in collera.	すぐにかつとなるんです。
E quando poi è incollerito, fa ruina, scompigli, fracassi, uh via, via.	かつとなるとすぐに、破壊し、大騒ぎし、粉々に砕く、などなど。
Perchè?	なぜ？
A questo poi Serpina penserà.	そのこともセルピーナは考えています。
Tanto obbligata. Intanto attenda a conservarsi, goda colla sua sposa amata, e di Serpina non si scordi affatto.	感謝しています。 その間にあなたの愛する花嫁と楽しみ、元気でいて下さい、そしてセルピーナのことを完全に忘れてしまわないでね。
A Serpina penserete qualche volta, e qualche dì e direte: Ah! Poverina, cara un tempo ella mi fu. (Ei mi par che già pian piano s'incomincia a intenerir.) S'io poi fui impertinente, mi perdoni: malamente mi guidai: lo vedo, sì.( E mi stringe per la mano, meglio il fatto non può gir.)	時折セルピーナを考えて下さい、そして数日は言して下さい、ああ！哀れな娘。彼女はずっと昔かわいかった。 (次第に優しくなり始めたようね。) <p>私はそれから生意気だった、私を許してね、あなたが私を悪く導いたのよ、わかるでしょ、ええ。(少しずつ追いつめられている、これより事はうまく回転しないだろう。)</p>
(Di' pur fra te che vuoi che ha da riuscir la cosa a modo mio.)	(何がしたいのか言いなさい、事は私の方法で終わるのよ。)
Vuol vedere il mio sposo?	私の花婿に会っていただけますか？
Io manderò per lui; giù in strada ei si trattien.	彼を来させます、下の道端で引き留めていますから。
Favorisca, signor...passi.	どうぞ、旦那様、通ってください。
Questi è desso.	これが彼です。
Anzi pochissime. Vuole me? Con permissione.	むしろ少なすぎです。私に何か？ すみません。

Sapete cosa ha detto?	何を言ったかわかりますか。
Che vuole che mi diate la dote mia.	彼は私の持参金をくれるように望んでいます。
Non gridate, ch'egli in furia darà.	大声を出さないで下さい、彼が怒ってしまいます。
Oh! Dio! Vedete pur ch'egli già freme.	ああ！神様！彼が身震いをしているのが分かるでしょう。
Che vuole almeno quattromila scudi.	少なくとも 4000 スクーディほしいそうです。
Ma, padrone il vostro male andate voi cercando.	でも御主人様が自分の不運を招いているのです。
Io ho concluso e non concluso. Adesso...egli ha detto...che, o mi date la dote di quattromila scudi, o non mi sposerà.	私は決めたけど、決めていません。 今…彼が言うことには…4000 スクーディの持参金を彼にやるか、結婚しないかだそうです。
Ha detto.	そう言いました。
Ma che mi avrete a sposar voi.	でもあなたが私を花嫁にもらうようにとも言っています。
Ha detto, o che altrimenti in pezzi vi farà.	言いました、あるいはさもないとばらばらにするって。
E lo vedrà.	彼を見て下さい。
Mi dia la destra in sua presenza.	彼の前で右手を私に出して下さい。
Viva il padrone.	万歳、御主人様。
E viva ancor Vespone.	ヴェスポーネにも万歳。
E non occorre più strepitar. Ti son già sposa, il sai.	大騒ぎする必要はないわ。すでに私はあなたの花嫁よ、
E di serva divenni io già padrona. Per te ho io nel core il martellin d'amore che mi percuote ognor.	私はすでに女中の女主人になったのです。あなたのために私は心の中に愛のハンマーを持っていて、いつも私を叩くのよ。
Deh! Senti il tippiti.	ああ！
È vero il sento già.	本当に聞こえる。
Io nol so.	分かりません。
Caro. Gioia. Oh Dio! Ben te lo puoi pensar.	いとしい人。喜び。ああ神様！ あなたはうまく考えることができた。
Io per me non so dirlo.	私はそれを言えない。

Sarà, ma non è questo.	しかしこれではないわ。
Ah! Furbo, sì t'intendo.	ああ！ずるい人、ええ私はあなたをそう思う。
Contento tu sarai, avrai amor per me?	あなたは満足しているでしょう、私に愛があるのでしょうか？
Dì pur la verità.	真実を言って。
Oh Dio! Mi par che no.	ああ神様！そうは見えません。
Oh sposo grazioso così mi fai goder.	まあ素敵な旦那様、こんなことが私を楽しませる。

## 第二節 モーツァルト作曲《ドン・ジョヴァンニ》のツェルリーナ

ツェルリーナのことについて言及している表現は、主にドン・ジョヴァンニ、マゼット、レポレッロの台詞から抜き出すことができる。その他の登場人物、ドンナ・エルヴィーラはツェルリーナを「この哀れな娘」、「あれがその田舎娘」と言い表し、ドンナ・アンナ、ドン・オッターヴィオらと共に「罪のない娘」という表現で言い表している。ドンナ・エルヴィーラの台詞の中の「contadina(o)」には、「農民、農夫」の意味の他、比喩的に「粗野な人、下品な人、田舎者」という意味も含んでおり（『伊和中辞典』より）、そのことを踏まえると、ドンナ・エルヴィーラが自分とは異なる身分の人間であるという意識を持っていることが分かる。彼ら三人は、身分の低いツェルリーナが、その純朴さによってドン・ジョヴァンニに騙されることを哀れんでいたということが分かる。しかし、前述したドン・ジョヴァンニ、マゼット、レポレッロの三人の台詞からは、それとは異なったツェルリーナの人物像を読み取ることができる。

このオペラの主役で、女好きのドン・ジョヴァンニの台詞からは何としてもツェルリーナの気を引こうとする様子が読み取れる。始めはツェルリーナとその婚約者のマゼットの二人に対して親しくなりたいと伝え、「おお親愛なる私のマゼット！親愛なる私のツェルリーナ！」と呼びかける。しかし、二人きりになると、「愛らしいツェルリネッタ」や「私の美しい人よ」と声をかけ、逆にマゼットを「あの大馬鹿者」と蔑んだ言葉で言い表している。またその後ドン・ジョヴァンニは、「その貴重で可憐で、砂糖をかけたような顔が、卑しい田舎者に乱暴に扱われることに（略）」や「そのいたずらっぽい目や、本当に美しい

唇、真っ白でかぐわしい小さな指は、あなたに他の運命をもたらす、チーズの触れ、バラをかぐようだ」のようにツェルリーナを褒め称えている。これらの表現からは、ツェルリーナのかわいらしい容姿を強調し、マゼットを見下した発言をすることによって、本来はマゼットと同じ身分であるツェルリーナに、自分はマゼットとは違うのだという意識を持たせたいドン・ジョヴァンニの目論見が感じられる。そしてその気になり始めたツェルリーナは「私の宝石よ、結婚しよう」、「私の美しい喜びよ」などと甘い言葉をかけられ、我慢できずに着いて行ってしまう。ドン・ジョヴァンニのツェルリーナに言及している台詞は、ツェルリーナを口説き落とすために、愛情を示す呼び方やその容姿を大げさに褒める表現が大多数を占めている。

一方、ツェルリーナの婚約者のマゼットの台詞には、ツェルリーナの無防備さにやきもきさせられる様子がよく表れている。ドン・ジョヴァンニの屋敷に招待される場面では、自分を置いて、ドン・ジョヴァンニと一緒に行こうとするツェルリーナのことを、「小悪党、油断ならない女、あいつはいつも俺のやっかいのもとだ。」と嘆き、普段からツェルリーナが軽薄な態度で振る舞っていることを表していると言える。ドン・ジョヴァンニの口説き文句に乗せられ、着いて行こうとしたツェルリーナには、「裏切り者！」と言って、彼女の不実な態度を責め、言い訳しようとする彼女に激怒する。また、マゼットは軽薄なツェルリーナのことを非難する際に、ちんぴらや小悪党、いたずら坊主を意味する「briccone」（『伊和中辞典』より）という言葉を多用している。ドン・ジョヴァンニの台詞の中でも、彼女の目を「quegli occhi bricconcelli（そのいたずらっぽい目）」と表現しているが、それは決して欠点を指摘しているわけではなく、むしろ魅力として捉えていることが分かる。

両者によって多少異なったニュアンスでこの言葉が使われてはいるが、マゼットは結局「bricconcelli」なツェルリーナにアリア「ぶってよ、ああ素敵なマゼット」でうまくなだめられ彼女を許してしまう。その後「ちょっと見てくれ、あの魔女がどんなに俺をそそのかせたか！」のように、ツェルリーナを「魔女」と言い表していることから、ツェルリーナがどこか魅惑的な娘であることが窺える。「小悪党」というよりむしろ「小悪魔」という表現がツェルリーナにはふさわしいのではないだろうか。

レポレッロは、ツェルリーナの持つある性質に苦しめられる人物である。レポレッロのツェルリーナについて言及している台詞は、そのほとんどがツェルリーナの凶暴さを表すものである。乱暴な彼女から逃れたいがために、「聞いて下さい、かわいい人…」と媚びる。しかし、「私を自由にして下さい、神様、この凶暴な女から！」という台詞の中の「furia」は、『伊和中辞典』によると「激怒、激高」などの意味の他に、「エリニュエス（復讐の女神）の一人：凶暴な人」を表す言葉であり、ツェルリーナの仕打ちがかなりひどいものであることが読み取れる。また「こいつ(costei)」や「殺し屋」などの言葉でもツェルリーナを形容しているが、第一節で記述したように「costei」の単数女性形の「costui」は蔑称であり、激しい暴力を受けたレポレッロの憎しみや恨みが込められていることが分かる。

次に、ツェルリーナ自身の台詞に着目する。第1幕8景は、ドン・ジョヴァンニに屋敷にマゼットと招かれる場面である。そこで、ツェルリーナはマゼットに、騎士（ドン・ジョヴァンニ）と一緒にいくから心配することはないし、何も疑うことはないと言って自ら二人きりになるように仕向けたにも関わらず、第9景では、ドン・ジョヴァンニがマゼットを蔑むのを聞いて、始めはマゼットをかばう発言をしたり、「私はあなた方騎士はごくま

れに女性に正直に誠実に」なり、そうして騙されてしまうことを知っているとは意外にも慎重な態度で応じていることが分かる。しかしその後半には、強い誘惑に心が揺れ始め、「そうしたい、けどできない、心が震える、幸せになれるかもしれない、でもからかっているということもありえるわ。」と不安と期待が入り混じった複雑な胸の内を語り、遂にはドン・ジョヴァンニの誘いに乗ってしまう。

第 16 景では、マゼットに浮気を責められ、ツェルリーナがマゼットの機嫌を取る場面である。結局着いて行こうとしたところをドンナ・エルヴィーラに見つかり、未遂に終わったのだが、自分の意志で着いて行こうとしたことは紛れもない事実である。しかしツェルリーナはその態度を責められ、謝るどころか、「私はあなたにこんな扱いをされる覚えはないわ！」と、自分は騙されていただけで、自分に責任はなかったと弁明する。それでも怒りが静まらないマゼットに、「私を信じないの？ 恩知らず！」と図々しくも責め、怒ったかと思うと、今度はアリア「ぶって、ぶってよ、ああすてきなマゼット」でマゼットをなだめようと、自分を哀れな子羊に喩える。どんな仕打ちを受けようとも、その後喜んでキスをしてみせるというツェルリーナに見事に丸め込まれたマゼットも、思わずツェルリーナを魔女に喩え「なんと自分たちは単純なんだろう！」と嘆く程の巧妙さである。第 16 景の後半から 18 景にかけては、ドン・ジョヴァンニと対面することにおびえる様子が見られる。マゼットはその様子を見て、二人の間に本当は何があったかが知られることを恐れていると指摘するが、ツェルリーナは「ああ隠れないで、ああマゼット、もしあなたを見つけたら、かわいそうな人、あなたはあの人が何をするのか知らないのね。」という心配な気持ちを口にし、第 20 景でも、「ああもし彼（ドン・ジョヴァンニ）が私の花嫁を見たら、

私にはよく分かる、何をするのか！」とマゼットのことを気にかけていることが分かる。

第2幕第6景では、暴行を受け、ツェルリーナに助けを求めるマゼットを、ツェルリーナは「私と一緒に家に来て、もしやきもちを抑えてくれると約束してくれるなら、私は、あなたを優しく治すわ、私の旦那様。」と言い、アリア「いいこと、愛しいあなた」で優しく、かつ大胆に「胸を触らせながら」慰める。この場面にはツェルリーナのなまめかしい性質が最もよく表れている。第8景から第10a景までは、ツェルリーナの乱暴な言動が目立つ。まずレポレッロを捕まえた時には、「私にあいつをおしおきさせて！」と積極的に暴行に加わろうとしている。また、命令に背こうとするレポレッロに「そうしないとこの手でその心臓を引き抜いて、その後犬に投げるよ」と脅すが、ツェルリーナのレポレッロに対する台詞には必要以上の怒りや残忍さを感じる。台詞だけでなくト書きにも、レポレッロの髪を掴んで引きずり、縛り上げるなどの指示があり、ツェルリーナが粗野な一面を持った人物として設定されていることが分かる。ついさっきまでは自分を哀れな子羊に喩えていたのに、「哀れみはお前にはないのよ、ちんぴら、私は怒ったトラ、毒蛇、ライオンよ、いいえ、ないわよ、お情けは！」などと凄みを利かせて、レポレッロを脅迫し、終いには「お前の主人の心臓がお前と一緒にここにあったらいいのに！」と言ってドン・ジョヴァンニに対しても強い復讐心を見せる。「私は喜びと楽しみで胸がときめくを感じる。こんな風に、男にはこんな風に、こんな風にするものよ。」というレポレッロを縛りながら発せられる台詞は、彼女がただの乱暴者ではなく、そこに喜びを感じている人物であることも示しているだろう。

ツェルリーナ以外の登場人物の台詞からは、ツェルリーナのかわいらしさや軽薄さ、小

悪魔的な魅力、凶暴さが読み取れた。ツェルリーナ自身の台詞からは、マゼットに対してはコケティッシュに振る舞い、ドン・ジョヴァンニへは恐怖感と浅はかな態度を、レポレッロに対してのサディスティックな一面を見せ、三人の男性に態度を使い分ける器用さを持った人物であることが分かる。

表Ⅲ

※ Z=ツェルリーナ、M=マゼット、D.G.=ドン・ジョヴァンニ、D.E.=ドンナ・エルヴィーラ、D.A.=ドンナ・アンナ、L=レポレッロ、D.O.=ドン・オッターヴィオ

話 者	台 詞	訳
Z&M	Vieni, vieni, <b>carino(a)</b> ,	おいで、おいで、いい人よ、
D.G.	Voglio che siamo amici: il vostro nome?	私達は親しくになりたい、あなたの名前は？
	O caro il mio Masetto! <b>Cara la mia Zerlina!</b>	おお親愛なる私のマゼット！ 親愛なる私のツェルリーナ！
M	<u>La Zerlina senza me non può star.</u>	<u>ツェルリーナは俺なしではいることができないんです。</u>
D.G.	Oh <b>la Zerlina</b> è in man d'un cavalier: va' pur, fra poco ella meco verrà.	おおツェルリーナは騎士の手の中にいる、さあ行きなさい、間もなく彼女は私と共に行くから。
M	<u>Bricconaccia, malandrina, fosti ognor la mia ruina.</u>	<u>小悪党、油断ならない女、あいつはいつも俺のやっかいのもとだ。</u>
	Resta, resta! È una cosa molto onesta: faccia il nostro cavaliere cavaliera ancora te.	残れ、残れ！ ずいぶん誠実な事だ、俺達の騎士がお前のことも女騎士にするだろう。
D.G.	Alfin siam liberati, <b>Zerlinetta gentil</b> , da quel scioccone: che ne dite, <b>mio ben</b> , so far pulito?	ついに私達は自由になった、 <b>愛らしいツェルリネッタ</b> 、あの大馬鹿者から、どうですか、 <b>私のいい人よ</b> 、私はよくやったでしょう。
	possa soffrir che <u>quel visetto d'oro, quel viso inzuccherato</u> , da un bifolcaccio vil sia strappazato	私が <u>その貴重で可憐で、砂糖をかけたような顔が</u> 、卑しい田舎者に乱暴に扱われることに耐えられると、
	<u>un'altra sorte vi procuran quegli occhi bricconcelli, quei labbretti sì belli, quelle ditucce candide e odorose: parmi toccar giuncata, e fiutar rose</u>	<u>そのいたずらっぽい目や、本当に美しい唇、真っ白でかぐわしい小さな指は、あなたに他の運命をもたらす、チーズに触れ、バラをかぐようだ</u>
	Orsù, non perdiam tempo: in questo instante io ti voglio sposar.	さあ、時間を無駄にするのはやめよう、すぐに私はお前と結婚したい。

	Quel casinetto è mio: soli saremo, e là, <b>gioiello mio</b> , ci soseremo.	あの小屋は私の物だ、私達だけでいよう、あそこで、 <b>私の宝石よ</b> 、結婚しよう。
	partiam, <b>ben mio</b> ,	行こう、私のいとしい人よ、
	Vieni, <b>mio bel diletto</b> :	おいで、私の美しい喜び
D.G.&Z	Andiam, andiam, <b>mio bene</b> , a ristorar le pene d'un innocente amor.	行こう、行こう、私のいとしい人、純粋な愛の苦しみを回復させるために。
D.E.	io sono a tempo di salvar <b>questa misera innocente</b> dal tuo barbaro artiglio	私はお前の野蛮な魔の手からこの <b>哀れな罪のない娘</b> を救うのに間に合った
M	<b>Perfida!</b> Il tatto sopportar dovrei d'una mano infedele?	<b>裏切り者!</b> その不実な手に触れられるのを耐えなければいけないのか?
	<u>Ed hai l'ardimento di scusarti?</u> <u>Star sola con un uom:</u> <u>abbandonarmi il dì delle mie nozze!</u>	<u>大胆にも言い訳するのか?</u> <u>俺の結婚の日に俺を置き去りにして一人男といたくせに!</u>
	Guarda un po' come seppe <b>questa strega</b> sedurmi!	ちょっと見てくれ、 <u>あの魔女がどんなに俺をそそのかせたか!</u>
	Ah capisco, capisco, <b>bricconcella!</b>	ああわかった、わかったぞ、 <b>小悪党!</b>
D.G.	<b>Zerlinetta mia garbata</b> , t'ho già visto, non scappar.	私の優雅なツェルリネッタ、もうお前を見つけた、逃げるな。
	No no, resta, <b>gioia mia!</b>	いいや、残ってくれ、 <b>私の喜び!</b>
	Sì, <b>ben mio</b> , son tutto amore. Vieni un poco in questo loco, fortunata io ti vo' far.	そうだ、私のいとしい人よ、愛の全て。ここへ少しおいで、私はお前を幸せにしたい。
	<u>La bella tua Zerlina non può, la poverina, più star senza di te.</u>	<u>お前の美しいツェルリーナは、哀れな娘は、お前なしでいることができない。</u>
	<u>Sei pur vaga, brillante Zerlina!</u>	<u>本当に美しい、輝くツェルリーナ!</u>
M	<b>La briconna</b> fa festa.	<b>小悪党</b> は騒いで楽しんでいる。
	Ah <b>briconna!</b>	ああ <b>小悪党!</b>
D.E.	Quella è <b>la contadina</b> .	あれが <b>その田舎娘</b> です。
D.G.	Il tuo compagno io sono, <b>Zerlina</b> , vien pur qua.	私がお前のパートナーだ、 <b>ツェルリーナ</b> 、ここに来なさい。

	Vieni con me, <b>mia vita</b> ,	私と一緒に来なさい、私の命よ、
D.A.,D.E., D.O.	Soccorriamo l'innocente!	罪のない娘を助けよう！
M	O Dio! <b>Zerlina, Zerlina mia!</b> Scorso!	ああ！ ツェルリーナ、俺のツェルリーナ！ 助けてくれ！
L	Per carità! Per carità, <b>Zerlina!</b> Senti, <b>carina mia...</b>	どうか！ お願いだから、ツェルリーナ！ 聞いてください、私のかわいい人…
	<u>Liberatemi, o Dei, da <b>questa furia!</b></u>	私を自由にして下さい、神様、この凶 暴な女から！
	<u>Fa' piano, per pietà...non strascinar mi a coda di cavallo!</u>	そっとしてください、どうか…馬の尻 尾に引きずらないで！
	<u>Per queste tue manine candide e tenerelle, per questa fresca pelle, abbi pietà di me!</u>	そのあなたの真っ白で柔らかな手、み ずみずしい肌のために、私に同情して 下さい！
	In mano di <b>costei</b> chi capitar mi fe'?	こいつの手の中に誰が俺を出会わせた んだ？
	<u>Deh non mi stringer tanto!</u> L'anima mia sen va.	ああそんなに締め付けないでくれ！ 俺の魂が行ってしまう。
	<u>Che strette...oh Dei, che botte!</u> <u>È giorno, ovver...è notte?</u>	何というきつさ…ああ神よ、何という 仕打ち！今は昼か、あるいは夜か？ 何という地震のような揺すり方！
	<u>Che scosse...di...tremuoto!</u> <u>Che buia pscurità!</u>	何と真っ暗な闇！
	<u>Guarda un po' come stretto mi legò l'assassina!</u>	ちょっと見てくれ、あの殺し屋がどの ように俺をきつく縛ったか！
	pria che <b>costei</b> ritorni	あいつが戻ってくる前に
M	Noi, <b>Zerlina</b> , a casa andiamo, a cenar in compagnia.	俺達は、ツェルリーナ、家に行こう、一 緒に夕食を取るために。

表IV

※ 特にツェルリーナの性質や考えが読み取れる部分

		聞き手	ツェルリーナの台詞	訳
第1幕	第7景			
			<p>Vieni, vieni, carino(a), e godiamo, e cantiamo e balliamo e saltiamo; che piacer, che piacer che sarà!</p> <p>A che piacer, che piacer che sarà!(&amp;M)</p>	<p>来て、来て、いとしい人、そして楽しみましょう、歌おう、踊ろう、飛び跳ねよう、なんて喜び、なんて楽しみなんだろう！</p> <p>ああなんて喜び、なんて楽しみなんだろう！</p>
	第8景	D.G.	Sì signore, e la sposa son io.	ええ旦那様、私が花嫁です。
			Oh il mio Masetto è un uom d'ottimo core.	ああ私のマゼットは最高の心を持った人です。
			Zerlina.	ツェルリーナです。
		M	<u>V'a, non temere!</u> <u>Nelle mani son io d'un cavaliere.</u>	<u>行って、心配しないで！</u> <u>私は騎士の手の中にいるんだから。</u>
			E per questo non c'è da dubitar.	だから疑うことはないのよ。
	第9景	D.G.	Signore, è mio marito...	旦那様、彼は私の夫です…
			Ma signor, io gli diedi parola di sposarlo.	でも旦那様、私は彼に結婚の約束をしたのです。
			Ah non vorrei...	ああ望みません…
			<u>Alfine ingannata restar: io so che raro colle donne voi altri cavalieri sieti onesti e sinceri.</u>	<u>ついに騙されることです、私はあなた方騎士はごくまれに女性に正直に誠実になることを知っています。</u>
			Voi?	あなたが？
			<u>Vorrei, e non vorrei, mi trema un poco il cor: felice, è ver, sarei, ma può burlarmi ancor.</u>	<u>そうしたい、けどできない、心が震える、幸せになれるかもしれない、でもからかっているということもありえるわ。</u>

			<u>Mi fa pietà Masetto;</u>	<u>マゼットがかawaiiそうよ。</u>
			Presto non son più forte.	もう耐えられないわ。
			Andiam!	行きましょう！
			Andiam, andiam, mio bene, a ristorar le pene d'un innocente amor. ( <i>Vanno verso il casino di Don Giovanni abbracciati etc.</i> ) (&D.G.)	行きましょう、行きましょう、私のいとしい人、純粋な愛の苦しみを回復させるために。 (抱きしめるなどしてドン・ジョヴァンニの小屋の方に行く。)
	第10景		Meschina, cosa sento!	みじめだわ、何を聞いているのかしら！（なんていうことかしら！）
		D.G.	Ma signor cavaliere...è ver quel ch'ella dice?	でも騎士様…彼女が言っていることは本当ですか。
	第16景	M	Masetto: senti un po'!	マゼット、ちょっと聞いてよ！
			Masetto, dico!	マゼット、何か言ってよ！
			Perchè?	なぜ？
			Ah no: taci crudele!	ああいや、ひどいことを言わないで！
			<u>Io non merto da te tal trattamento!</u>	<u>私はあなたにこんな扱いをされる覚えはないわ！</u>
			Ma se colpa io non ho! Ma se da lui ingannata rimasi...e poi che temi? Tranquillati, mia vita: non mi toccò la punta delle dita. Non me lo credi? Ingrato! <u>Vien qui; sfogati; ammazzami, fa' tutto di me quel che ti piace; ma poi, Masetto mio, ma poi fa' pace.</u>	でももし私に責任がなかったら！ もし彼に騙されていたのだとしたら…それでは何を恐れるの？ 落ち着いてよ、私の命、私の指先にも触らなかった。 私を信じないの？ 恩知らず！ <u>ここに来て、怒りをぶちまけて、あなたが好きなこと全部して、その後、私のマゼット、仲直りして。</u>
			Batti, batti, o bel Masetto,  la tua povera Zerlina: starò qui come agnellina le tue botte ad aspettar. Lascierò straziarmi il crine, lascierò cavarmi gli occhi, e le	ぶって、ぶってよ、ああすてきなマゼット、 あなたのかawaiiそうなツェルリーナがここで子羊のようにあなたの仕打ちを待っているの。 髪をめちゃくちゃにさせておくれ、目を引き抜かせたままにする

		<p>care tue manine lieta poi sadrò baciare.</p> <p>Batti, batti, o bel Masetto,</p> <p>la tua povera Zerlina: starò qui come agnellina le tue botte ad aspettar.</p> <p>O bel Masetto, batti, batti, starò qui le tue botte ad aspettar.</p> <p>Ah lo vedo, non hai core: pace, o vita mia: in contenti ed allegria notte e dì vogliam passar, sì, sì, sì, sì, sì, sì, notte e dì vogliam passar.</p>	<p>わ、その後いとしいあなたの手に喜んでキスをするわ。</p> <p>ぶって、ぶってよ、ああすてきなマゼット、</p> <p>あなたの哀れなツェルリーナを。ここで子羊のようにあなたの仕打ちを待っているのよ。</p> <p>ああすてきなマゼット、</p> <p>ぶって、ぶって、あなたの仕打ちをここで待っているわ。</p> <p>ああ彼は勇気がないようね、仲直りよ、ああ私の命よ、満足に、愉快に、夜も昼も過ごしたいわ、ええ、ええ、夜も昼も仲良く過ごしましょう。</p>
		<p>Ah Masetto, Masetto!</p> <p>Odi la voce del monsù cavaliere!</p>	<p>ああマゼット、マゼット！</p> <p>あの騎士の声が聞こえるわ！</p>
		Verrà!	来るわよ！
		Ah se vi fosse un buco da fuggir!	ああ逃げる穴があったらいいのに！
		<p>Senti senti...dove vai!</p> <p>Ah non t'asconder, o Masetto, se ti trova, poveretto, tu non sai quel che può far.</p>	<p>聞いて聞いてよ...どこへ行くの？</p> <p>ああ隠れないで、ああマゼット、もしあなたを見つけたら、かわいそうな人、あなたはあの人が何をするのか知らないのね。</p>
		Ah non giovan le parole!	ああ言葉は役に立たない！
		Che capriccio ha nelle testa!	頭の中に何ていう気まぐれがあるの！
		Quell'ingrato, quel crudele oggi vuol precipitar.	あの恩知らず、あのむごい人は今日破滅したいのね。
第 18 景		Tra quest'arbori celata si può dar che non mi veda.	あの木の間に隠れれば私を見つけれないだろう。
	D.G.	Ah lasciatemi andar via...	あああっちに行かせて下さい...
		Se pietade avete in core...	もし心に哀れみがあるなら...
		Ah s'ei vede il sposo mio, so ben io, quel che può far!	ああもし彼が私の花婿を見たら、私はよく分かる、何をするのか！

			Sì, sì, facciamo core, ed a ballar cogli altri andiamo tutti tre. (&M)	ええ、ええ、元気を出しましょう、そして他の人と踊るために三人みんなで行きましょう。
	第 20 景		Troppo dolce comincia la scena, in amaro potria terminar.(&M)	あまりにうまく場面が始まり、後味が悪く終わるかもしれない。
		D.G.	Sua bontà!	あなたのやさしさ！
			Quel Masetto mi par stralunato, brutto, brutto si fa quest'affar.	あのマゼットは動揺しているようね、この問題は悪くなる。
			Oh numi! Son tradita!	ああ神よ！裏切られた！
		tutti	Gente aiuto, aiuto gente!	みんな助けて、助けてみんな！
			Scellerato!	極悪人！
			Soccorretemi, o son morta!	私を助けて、さもないと死ぬわ！
			Traditore! Tutto tutto già si sa. Trema, trema, o scellerato! Saprà tosto il mondo intero il misfatto orrendo e nero, la tua fiera crudeltà. Odi il tuon della vendetta che ti fischia intorno intorno; sul tuo capo in questo giorno il suo fulmine cadrà. (&D.A., D.E., D.O., M)	裏切り者！ 全てすでに知っている。 震えろ、震えろ、ああ極悪人！ すぐさま世間は、恐ろしく悪意がある大罪とあなたの乱暴で残酷な非道は知るだろう。 あなたの周りで復讐の雷鳴が合図するのを聞きなさい、あなたの頭にまさに今日、その雷が落ちるだろう。
第 2 幕	第 6 景		Di sentire mi parve la voce di Masetto.	マゼットの声が聞こえたようね。
		M	Cosa è stato?	どんな状態なの？
			Oh poveretta me! Chi?	ああかわいそうな私！誰が？
			Crudel! Non tel diss'io, che con questa tua pazza gelosia ti ridurresti a qualche brutto passo?	ひどい！私はあなたに言わなかった？あなたの逆上したやきもちによっていくらかの悪い方向に向かうと。
			Dove ti duole?	どこが痛むの？
			E poi?	あとは？
			E poi non ti duol altro?	それから他は痛まないの？

			<p>Via, via, non è gran mal, se il resto è sano.</p> <p><u>Vientene meco a casa; purchè tu mi prometta d'essere men geloso, io, io ti guarirò, caro il mio sposo.</u></p>	<p>さあ、さあ、そんなにひどくないわ、もし他の部分が正常なら。</p> <p><u>私と一緒に家に来て、もしやきもちを抑えてくれると約束してくれるなら、私は、私はあなたを優しく治すわ、私の旦那様。</u></p>
			<p>Vedrai, carino, se sei buonino, che bel rimedio ti voglio dar.</p> <p>È naturale, non dà disgusto, e lo speciale non lo sa far.</p> <p>È un certo balsamo che porto addosso: dare te' l posso, se' l vuoi provar.</p> <p>Saper vorresti dove mi sta?</p> <p><u>Sentilo battere,</u> <u>(facendogli toccar il core)</u> <u>toccami qua.</u></p>	<p>いいこと、愛しいあなた、もしあなたがおりこうさんなら、あなたに素敵な薬をあげたいわ。</p> <p>それは天然の物で、まずくないの、そしてそれは薬屋も知らないのよ。</p> <p>私が持っているそれは、ある鎮痛剤みたいであなたにあげてもいいわよ、もしそれを試したいなら。</p> <p>それが私のどこにあるか知りたい？ <u>ドキドキしているのが分かるでしょ、</u> <u>(胸を触らせながら)</u> <u>ここを触ってみて。</u></p>
	第 8 景	L	<p>Ferma, briccone, dove ten vai? (&amp;M)</p>	止まりなさい、ならず者、どこに行くの？
			<p>Ah mora il perfido che m'ha tradito! (&amp;D.A., D.O., M)</p>	ああ私を裏切った不実な人は死になさい！
			<p>È Donna Elvira, quella ch'io vedo?</p> <p>Appena il credo!</p> <p>No, no! Morrà!</p>	<p>私が見ているのはドンナ・エルヴィーラなの？</p> <p>ほとんど信じられない！</p> <p>いいえ、いいえ！死ぬのよ！</p>
			<p>Dei! Leporello!</p> <p>Che inganno è questo!</p> <p>Stupiado(a) resto...che mai sarà! (&amp;D.A., D.E., D.O., M)</p>	<p>ああ！レポレロ！</p> <p>これは何というごまかし！</p> <p>驚いたまま…何があったのか！</p>
			<p>Mille torbidi pensieri mi s'aggiran per la testa...che giornata, o stelle, è questa!</p> <p>Che impensata novità!</p>	<p>いくつもの混乱した考えが頭をかき回す…ああ星よ、なんて日なんだろう、今日は！</p> <p>なんと思いがけない新しい情報！</p>

	第9景	L	Dunque quello sei tu che il mio Masetto poco fa crudelmente maltrattasti?	つまり私のマゼットをちょっと前に残酷にも傷つけたのはあんたなの？
		tutti	<u>A me tocca punirlo!</u>	<u>私にあいつをおしおきさせて！</u>
	第10景		Con qual arte si sottrasse l'iniquo!...	どんな技であの邪悪な男は逃げたの！
	第10a景	L	<u>(Zerlina con coltello alla mano conduce fuori Leporello per i capelli.)</u> Restati qua!	<u>(ナイフを持ったツェルリーナは髪の毛を掴んでレポレッロを外に連れて行く。)</u> ここにいなさい！
			Restati qua!	ここにいなさい！
			<u>Eh, non c'è carità pei pari tuoi!</u>	<u>ああ、あんたのような人に哀れみはないのよ！</u>
			...i capelli, la testa, il core e gli occhi.	髪の毛、頭、心臓、目をね。
			<u>(In atto minaccioso lo respinge.)</u> <u>Guai se mi tocchi!</u>	<u>(威嚇しながらはねつける。)</u> <u>もし私に触ったらただじゃおかないわよ！</u>
			Vedrai, schiuma de' birbi, qual premio n'ha chi le ragazze ingiuria.	いい？ならず者のくず、女を侮辱するとどんな褒美をもらうか。
		M	Masetto...olà! Masetto! <u>(Si strascina dietro per tutta la scena Leporello.)</u> Dove diavolo è ito...servi... gente... nessun vien...nessun sente...	マゼット…ねえ！マゼット！ <u>(レポレッロを舞台上後ろに引きずる。)</u> どこに行ったの…召使い達…みんな…誰も来ないし…誰も聞いていない…
			Vedrai, vedrai come finisce il ballo. Presto qua quella sedia.	いい、舞踏会がどのように終わるか見ていなさい。 早くここにあのイスを。
		L	Siedi.	座って。
			<u>Siedi, o con queste mani ti strappo il cor, e poi lo getto a' cani.</u>	<u>座って、そうしないとこの手でその心臓を引き抜いて、その後犬に投げるよ。</u>

		Sì mascalzone! Io sbarbare ti vo' senza sapone.	ええ悪党！ 私は石鹸なしで髭剃りをしたいわ。
		Dammi la man!	手を出しなさい！
		L'altra.	他のも！
		Voglio far, voglio far quello che parmi. <i>(Lega le mani a Leporello col fazzoletto; il contadino l'aiuta.)</i>	したいのよ、私がしたいように。  <i>(レポレッロの手をハンカチで縛る、農夫がそれを手伝う。)</i>
		<u>Non v'è pietà, briccone, son una tigre irata, un aspide, un leone, no, no, pietà non v'è!</u>	<u>哀れみはお前にはないのよ、ちんぴら、私は怒ったトラ、毒蛇、ライオンよ、いいえ、ないわよ、お情けは！</u>
		<u>Sei morto se ti muovi!</u>	<u>もし動いたら死ぬよ！</u>
		Barbaro traditore! <u>Del tuo padrone il core avessi qui con te!</u>	野蛮な裏切り者！ <u>お前の主人の心臓がお前と一緒にここにあったらいいのに！</u>
		Sen vada, o resti, intanto non partirai di qua.  <i>(Lo lega con molta forza.)</i>	たとえ魂が抜けても、そうでなくても、どっちみちここから逃げることはできない。  <i>(彼を強い力で縛る。)</i>
		Di gioia e di diletto sento brillarmi il petto. Così, così cogl' uomini, così, così si fa.	私は喜びと楽しみで胸がときめく のを感じる。  こんな風に、男にはこんな風に、 こんな風にするものよ。
		第 10c 景	D.E.
Stelle! In qual modo si salvò quel briccon?	まあ！どんな方法であのちんぴらは逃げたのかしら？		
M	Ah, Masetto, Masetto, dove fosti finor?		ああ、マゼット、マゼット、今までどこにいたのよ？

		È desso senza fallo: anche di questo informiam Don Ottavio: a lui si aspetta far per noi tutti, o domandar vendetta.	間違いなく彼よ、ドン・オッターヴィオにもこのことを知らせましょう、彼が私達全員のためにするか、神の裁きを待つのです。
最終 景		Ah dove è il perfido, dov'è l'indegno? Tutto il mio sdegno sfogar io vo'. (&D.A.,D.E.,D.O.,M)	ああ不実な男はどこにいるのか、恥ずべき男はどこにいるのか。私は怒りの全てを打ち明けたい。
	L	Cos'è? Favella! Via, presto sbrigati... (&D.A.,D.E.,D.O.,M)	どうしたのですか。話さない！ さあ、早く、急ぎなさい…
		Presto! Favella! Sbrigati! (&D.A., D.E., D.O., M)	早く！話して！急いで！
		Stelle! Che sento! (&D.A.,D.E.,D.O.,M)	なんと！私は何を聞いているの！
		Ah certo è l'ombra che l'incontrò!(&D.A.,D.O.,M)	ああ彼女と出くわした亡霊は本物だ！
	M	Noi, Masetto, a casa andiamo, a cenar in compagnia.	私達は、マゼット、家に帰りましょう、一緒に夕食を取るために。
		Resti dunque quel birbon con Proserpina e Pulton. E noi tutti, o buona gente, ripetiam allegramente l'antichissima canzon. (&M,L)	それではあのならず者はプロセルピーナとプルトンと居残る。 そして私達みんなは、ああ親切な人々よ、陽気に最も古い歌を繰り返しましょう。
		Questo è il fin di chi fa mal! E de' perfidi la morte alla vita è sempre ugual!(tutti)	これが悪事を働く人の終わりだ！ そして不実な人の死はいつもその生活に同等だ！

### 第三節 モーツァルト作曲《コジ・ファン・トゥッテ》のデスピーナ

デスピーナ以外の登場人物によるデスピーナの性質などに言及している台詞は、《奥様女中》や《ドン・ジョヴァンニ》に比べると少ない。また、「かわいいツェルリーナ」や「愛しいツェルリネッタ」などの呼び方もほとんど見られず、加えて「私の宝石」や「私の娘のように」などのような比喻による表現も前述した二作品に比べると少ない。このことを考えると、デスピーナが他の登場人物との関わりが薄く、目立たない人物であるように錯覚するが、デスピーナ自身の台詞はセルピーナやツェルリーナより多く、ツェルリーナは第1、2幕合わせて40景中14景に登場するが、デスピーナは第1、2幕合わせて34景中15景に登場し、物語中に登場する割合もデスピーナの方が多いたことが分かる。よってデスピーナがどんな人物なのかをデスピーナ自身の台詞を中心に考察していく。

まず他の登場人物達によって、デスピーナがどのような人物として捉えられているかを見てみる。これで彼女の性質を特定するには難しいが、彼女が抜け目ない人間であることはドン・アルフォンソの台詞から読み取ることができる。彼は主役の姉妹の恋人と賭けをしているが、デスピーナの狡猾さによって、自分の計画が見破られるかもしれないという危機感を抱いており、また、逆に彼女の力を借りた方が計画を遂行しやすいだろうとも考えている。しかし褒美を用意すれば味方に付けられると考えているドン・アルフォンソの「小間使いへは金貨一枚が十分な魔よけになる」という台詞からは、明らかに小間使いという身分である彼女を見下していることが分かるし、また彼女がたった金貨一枚のために企みに加担する人物であることも示唆している。ドン・アルフォンソは、デスピーナに「デ

スピネッタ」、「私のデスピーナ」、「美しいデスピネッタ」、「娘よ」などのように呼びかけているが、Despinetta の「-etta(o)」という接尾語には、「縮小」「親愛」「侮蔑」の意」（『伊和中辞典』より）が込められており、デスピーナの悪知恵を利用したために彼女にへつらおうとして意図的に「親愛」の気持ちを込めて呼んだと考えられる。しかし「小間使い」や「娘」という言葉を使っていることを考えると、自分よりも若く、また彼女の身分のことをも含めて、デスピーナを子供扱いし馬鹿にする気持ちも含まれていると言える。

デスピーナを雇っている主人、フィオルディリージとドラベッラの姉妹は、デスピーナを頼りにしながらも、あくまでもたくさん仕えている小間使いの内の一人と見なしているようだ。《奥様女中》のセルピーナは、主人であるウベルトに小さい頃から大切に育てられたために、女中でありながら娘のように愛され最終的には玉の輿に乗ることに成功した。デスピーナの場合は、主人が特別に気に入った小間使いを引き立てているという印象は受けないし、まして愛情というものも感じられない。フィオルディリージの台詞の中には、「私が妹に私のことを話したのは間違いだった、そして私の小間使いにも」とあり、その際「serva(o)」という単語を用いているが、第一節でも述べたようにその単語自体に「軽蔑的なニュアンス」が含まれていることを考えると、デスピーナを見下していることが読み取れる。また姉妹の間ではデスピーナのことはあまり話題に上らない。デスピーナのおかしなアドバイスを受けて「私はあの娘の悪魔のような心に驚いたわ。」「でも私を信じて、彼女は気が狂っているわ。彼女の勧めを受け入れるケースがあると思う？」などと姉妹がデスピーナについて話し合う場面も確かにあるが、たかが小間使いの言うことなんて…という気持ちを読み取れなくはないし、姉妹の目にはデスピーナがかなり奇特定の人物として

映っているので、彼女の言葉に耳を傾けること自体馬鹿馬鹿しく、聞き流そうとする雰囲気がある。やがて姉妹はデスピーナの計画にはまってしまうのだが、デスピーナの性質に言及してある台詞や表現が前の二作品に比べて少ないのは、自分たちにとってデスピーナはそれほど重要な人物ではないと認識していることも関係しているのではないだろうか。

姉妹はデスピーナを「尊大な小娘」と呼び、特にフィオルディリージはデスピーナを「馬鹿者」とたしなめ、「誘惑女」とも言い表している。また、デスピーナとドラベッラの両者に対して「悪人たち！」と怒っていることや、ドラベッラの「悪魔のような心」という表現を考えると、デスピーナが相当腹黒く、他人をそそのかすのがうまい人物であることが分かる。姉妹の恋人であるフェルランドとグリエルモは、デスピーナの変装を見て、その姿を狡猾だと言っている。また「この娘と同じくらい抜け目ない娘はどこで見つけられるか！」という二人の台詞やドン・アルフォンソの台詞からも、「抜け目なさ」や「狡猾さ」が彼女の性質の割合を多く占める要素であると推測できる。

次にデスピーナ自身の台詞を見てみる。所々に自分以外の登場人物を蔑み馬鹿にする態度が感じられる。デスピーナは小間使いの身であるが、内心は世間知らずの主人よりも自分の方が勝っていると思っているのである。しかしデスピーナの中での常識や分別は、姉妹だけでなく、私達にとっても奇抜なものである。たとえば、恋人が戦争へ行ってしまったことを悲しむ姉妹に、それを補ってくれる男性が他にいと励まし、また、彼らがいないう間嘆きながら暮らすことは無駄であるとし、反対に楽しめというアドバイスをする。デスピーナはアリア「男や兵隊に」の中で、男には貞節を期待するものではないと話して聞かせ、女を蔑む男に復讐をしてやるためにも気軽に恋を楽しもうと言うのである。自分達

の恋人を信じ、純粋に愛する姉妹にとっては驚き、憤慨する内容であり、私達も彼女のひょうきんさやユニークな発想に驚き、しかし妙に的を得ているような気もするし、関心が引かれる。しかし彼女が登場する一幕8景からアリアが歌われる9景までは、彼女の狡猾さはあまり見られない。むしろ彼女の陽気な面が目立っており、変わり者ではあるが、個性的な人物という印象である。しかしドン・アルフォンソに計画を持ちかけられる第10景からは、悪知恵を働かせて周囲の人々を翻弄するデスピーナの狡猾な面が読み取れる台詞が増えていく。

第10景は、自分の元へやって来たドン・アルフォンソに、自分のような若い娘に老人は何もできないと言い放つが、一枚の金貨を見せられた途端に態度を変えてすぐに誘いに乗ってしまう場面である。そこで、ドン・アルフォンソの提案を聞いたデスピーナは姉妹を「道化」と表現しているが、9景でのアリアの前には「子供にこんなおどぎ話を吹聴するような時間は過ぎますよ」と言っていることから、姉妹の純粋さや世間知らずであることを見下している様子が窺える。第13景では、積極的に策略に関わろうとするデスピーナの腹黒さと自信が表れている。デスピーナにとっては、恋人を失ったことを悲しむのは「狂気の沙汰」であり、反対に他に男を捕まえるチャンスなのである。またデスピーナは姉妹を「変わり者達」と言い換え、変装した恋人達から愛されていることが分かりさえすれば、自分の考えやしきたりに従うようになるとほくそ笑む。その後の「からくりの全てを動かす厄介事は私にさせて下さい。デスピーナが事を企めば効果が出ないことはあり得ない、私は既に千人の男を手玉に取ってきた、二人の女性もそうできるでしょう。」という台詞や「もし私があなた方に指示したことを全てやれば、明日までに、あなたの友達

は勝利を宣言するでしょう、そして彼らは満足し、私は栄光を味わうでしょう」という台詞には、この策略を操り成功させる自信が表れており、「千人の男を手玉に取ってきた」と大げさな言い方で自分の力を誇示している。また、男達の「勝利」や「満足」だけでなく、自分の「栄光」を得ることも決して忘れない抜け目なさをも感じる。

第 16 景では、毒に苦しむ恋人達を治療する医者に扮する。いろいろな言語を操るという人物設定で、ラテン語「*Salvete amabiles bones puellas!*」と挨拶しながら登場する。しかし、このラテン語は正しくない。正しくは「*bonae puellae*」であるが、『オペラ対訳ライブラリー モーツァルト コシ・ファン・トゥッテ』の中で訳者は、「モーツァルトは小間使いのデスピーナに難しいラテン語をあまり正確にしゃべらせるのを避けたのだろうか。」(小瀬村幸子、2006、p.77)と述べている。小間使いという身分を考えると、十分な教育などは受けていないと思われる。そのために意識的に不正確なラテン語を使ったと考えられるが、それによってこの医者胡散臭さが表れており、かえってデスピーナの面白さが際立っている。そして脇では、姉妹の怒りや興奮を見て「愉快」であるとし、それがいずれは愛情に変化するだろうとドン・アルフォンソと密かに喜びを分かち合う陰険さが読み取れる。

第 2 幕第 1 景では、自分の恋愛における持論を展開し、適当に彼女達を持ち上げながらそそのかそうとする様子が描かれている。「時によって(態度を)変えて、時によって誠実に、愛想よく媚を売り」、チャンスを無駄にしないようにしなさいと教え、恋人が戻ってくるまでの間は「徴募」、つまり男性を募集することを勧める。この考えに賛同を示さない姉妹も、デスピーナに「あの外国人達はあなた方を既に崇めています」、「あなた方のように

若く美しく優雅な」女性などと賞賛され、どんどん興味を示すようになる。そしてアリア「女も 15 歳になったら」で、男に惚れさせる手練手管を教授して念を押す。第 1 景から第 4 景にかけてのデスピーナの台詞、たとえば「(楽しみを見つけたようね。)」や「(私が言った通りに落ちるわ。）」、「(この教えが気に入ったようね、万歳、役に立てるデスピーナ。)」という言葉や、「彼女達が下（罨）に落ちなかったら、悪魔より尊敬する。」という台詞からは、姉妹が自分の罨に落ちるということを確信し始めていることが分かる。

第 17 景では、デスピーナの二回目の変装の場面である。ここではデスピーナは結婚公証人ベッカヴィーヴィとして鼻声で契約書を読みあげる。最終景では公証人の姿のままでフェルランドとグリエルモの前に登場し、「この娘と同じくらい抜け目ない娘はどこで見つけられるか！」と驚嘆させる。しかしデスピーナ自身も「私に匹敵する抜け目ない女はどこで見つけられるかしら！」と話し、「抜け目ない」というのは彼女にとっては賞賛の言葉であり、自分の思惑通りに事が運んだことを喜んでいる。その後自分も騙されていたことが分かると、「私は目が覚めているか夢を見ているか分からない、混乱して恥ずかしい」と心外な気持ちを口にしながらも、「まあ思ったより悪くない、もし私を騙したなら、私も他のたくさんの人をそうするわ。」と全く懲りていない様子である。

アリアの中でデスピーナが自画自賛する際に、「viva Despinana che sa servir」という表現を用いているが、servire には「役立つ」という意味の他、「…に仕える、奉仕する、服従する」（『伊和中辞典』より）の意味もあり、わざわざ自分の身分を強調するような言葉を使っていることが分かる。デスピーナは初め、小間使いの仕事への嫌気をあらわにしている。日頃から溜まった鬱憤を晴らそうという気持ちもあり、姉妹を騙すに至ったのか

もしれないが、自分が小間使いという低い身分でいながら、悪知恵を使えば自分よりも高い身分の姉妹や男達を騙せるということに優越感を抱き、逆に自分の置かれている状況を楽しんでいるとも言える。周囲を巻き込むような悪巧みを考え、少々やり方は手荒いが、彼女はあくまでも陽気な人物で、遊び心も失わない。最後に登場人物全員が「あらゆることを良い方にとらえ、どんな事情の中でも人生の浮き沈みを理性で操る人は幸福だ。他の人は泣いてしまうのが常なのに、彼らにとっては笑いの動機であり、世間の荒波の真ん中でも素敵な静けさを見つけるだろう。」と大団円を迎える。が、まさしくデスピーナの生き方そのものを表した言葉なのではないだろうか。

表V デスピーナ以外の登場人物による台詞

※ Fio.=フィオルディリージ、Dor.=ドラベッラ、Fer.=フェルランド、Gug.=グリエルモ、D.A.=ドン・アルフォンソ、D=デスピーナ

※ 太字→デスピーナの呼称、下線部→デスピーナの性質を特に表す部分

話 者	台 詞	訳
Fio.	<b>Sciocca</b> , che dici?	馬鹿者、何を言っているの？
D.A.	Temo un po' per <b>Despina</b> ... <u>quella furba</u> potrebbe riconoscerli... <u>potrebbe rovesciarmi le macchine</u> ... vedremo... se mai farà bisogno un regaletto a tempo, un zecchinetto per <b>una cameriera</b> è un gran scongiuro. <u>Ma per esser sicuro, si poteva metterla in parte a parte del secreto</u> ...eccellente è il progetto...la sua camera è questa... <b>Despinetta!</b>	少し <b>デスピーナ</b> が心配だ… <u>あの抜け目ない娘</u> は気づくこともありうる… <u>からくりをひっくり返すこともありうる</u> …さてと…なんなら遅れずにプレゼントが必要だろう、 <b>小間使い</b> へは金貨一枚が十分な魔よけになるだろう。 <u>しかし確実にするために、部分的に彼女を秘密に加わらせた方がよいだろう</u> …計画はすばらしい…彼女の部屋はここだ… <b>デスピネッタ!</b>
	<b>Despina mia</b> , di te bisogno avrei.	私の <b>デスピーナ</b> 、お前にお願ひがある。
	Parla piano ed osserva. (mostrandole una moneta d'oro)	そっと話しなさい、そして見なさい。 (金貨を見せる)
	Sì, se meco sei buona.	ああ、もし私に対して良い娘なら。
	Ed oro avrai, ma ci vuol fedeltà.	では金貨をもらいなさい、でも忠実が必要だ。
	Orben: se mai per consolarle un poco e trar, come diciam, chiedo per chiedo, tu ritrovassi il modo da metter in lor grazia due soggetti di garbo, che vorrieno provar, già mi capisci...c'è una mancia per te di venti scudi, se il fai riuscir.	そこでだ、もし彼女たちを少し慰めて救い出すために、何と言えよいか、釘を釘で抜くような、彼女たちが受け入れるような方法をお前が思いつくなら、上品な二人の人がそれを試したいそうだが、もう私のことは分かるね…お前には 20 スクードの褒美をやる、もし成功したら。
	Alla <b>bella Despinetta</b> vi presento, amici miei; non dipende che da lei consolar il vostro cor.	美しい <b>デスピネッタ</b> にあなたたちを紹介する、私の友人たちよ、あなた方の心を慰めるためには彼女に頼らなけれ

		ば。
Fer.&Gug.	Per la man, che lieto io bacio, per quei rai di grazie pieni, fa' che volga a me sereni i begli occhi il mio tesor.	私がうれしくキスをするこの手によって、好意に満ちたその目によって、私の宝である人の美しい澄んだ瞳を私に向けるようにしてください。
Fio.&Dor.	Ehi <b>Despina!</b> Olà <b>Despina!</b>	ちょっと <b>デスピーナ!</b> ねえ <b>デスピーナ!</b>
	<b>Ragazzaccia tracotante</b> , che fai lì con simil gente?	<b>尊大な小娘</b> 、そこでそんな人たちと何をしているの?
Fio.	Temerari, sortite fuori di questo loco! <i>(Despina sorte impaurita.)</i>	向こう見ずな、この場から外へ出なさい! <i>(デスピーナが怖がって出て行く。)</i>
D.A.	Vieni vieni, <b>fanciulla</b> , e dimmi un poco dove sono, e che fan le tue padrone.	おいでおいで、 <b>娘よ</b> 、二人のお嬢様たちがどこにいて、何をしているか私にちょっと教えなさい。
Fio.&Dor.	Gente, accorrete, gente! Nessuno, oddio, ci sente! <b>Despina!</b>	みんな、早く来て、誰か! 誰も、ああ、聞いていないわ! <b>デスピーナ!</b>
	<b>Despina!</b>	<b>デスピーナ!</b>
Fer.&Gug.	<u><b>Despina</b> in maschera, che trista pelle!</u>	<u>変装した<b>デスピーナ</b>、なんて狡猾な外見なんだ!</u>
Fio.&Dor.	<b>Signor dottore</b> , che si può far?	<b>お医者様</b> 、何をすればよいのでしょうか?
Fio.,Dor., D.A.	Preso han l'arsenico, <b>signor dottore!</b>	砒素を飲んだのです、 <b>お医者様</b> 、
Fio.	(Che diavolo!) Tai cose falle tu, se n'hai voglia.	(なんて悪魔なの!) お前がそういうことをしなさい、もしそれをしたいなら。
Dor.	Io son stordita dallo <u>spirto infernal di tal ragazza.</u>	私は <u>あの娘の悪魔のような心</u> に驚いたわ。
Fio.	Ma credimi: <u>è una pazza.</u>  Ti par che siamo in caso di seguir suoi consigli?	でも私を信じて、 <u>彼女は気が狂っているわ。</u> 彼女の勧めを受け入れるケースがあると思う?

Dor.	Quando si dice che vengon per <b>Despina!</b>	その時はデスピーナのために来ると言えばいいのよ！
D.A.	<b>Despinetta</b> , terminiam questa festa,	デスピネッタ、この祭りはやめにしよう、
Dor.	Invan, <b>Despina</b> ,	むだよ、デスピーナ、
Fio.	<b>Sciagurate!</b> Ecco per colpa vostra in che stato mi trovo!	悪人たち！ さああなたたちの過ちのために私がどんな状態か見なさい！
	Come tutto congiura a sedurre il mio cor! Ma no...si mora, e non si ceda...errai quando alla suora io mi scopersi, ed alla <b>serva mia</b> .	なんとみんなは私の心をそそのかすために企むのだろう！ でも終わらない、屈しないわ…私が妹に私のことを話したのは間違いだった、そして私の小間使いにも。
Fio.,Dor., Fer.,Gug.	Della <b>cara Despinetta</b> certo il merito sarà.	かわいいデスピネッタの手柄もいくらかあるでしょう。
Fer.&Gug.	<b>Una furba</b> uguale a questa dove mai si troverà!	この娘と同じくらい <b>抜け目ない娘</b> はどこで見つけられるか！
Fio.&Dor.	<b>La Despina, la Despina!</b> Non capisco come va.	デスピーナ、デスピーナですって！ どうなっているのか分からない。
Fio.	Per noi favelli il crudel, <b>la seduttrice</b> .	私たちのために言ってもらう、その残酷な男、誘惑な女に。

表VI デスピーナの台詞

- ※ 下線部→特にデスピーナの性質や考えが読み取れる部分
- ※ 変装場面→ゴシック体

第 1 幕	第 8 景	<u>Che vita maledetta è il far la cameriera!</u> Dal mattino all sera si fa, si suda, si lavora, e poi di tanto che si fa nulla è pel noi; è mezz'ora, che sbatto; il cioccolatte è fatto, ed a me tocca restar ad odorarlo a secca bocca?	<u>お手伝いの仕事は何て忌々しい生活なの！</u> 朝から晩まで仕事をして、汗をかき、働いて、とはいえどんなに働いても、私のためではないのよ、かき混ぜて 30 分たって、チョコレートはできたけど、私は匂いがかぐだけで、口は渴いたままなの？
-------------	-------------	---	---

	<p>Non è forse la mia come la vostra, o garbate signore, che a voi dessi l'essenza, e a me l'odore?</p> <p>Per bacco vo' assaggiarlo: com'è buono!</p> <p>Vien gente. O ciel, son le padrone!</p> <p>Madame, ecco la vostra colazione.</p> <p>Diamine, cosa fate?</p>	<p>私の口は多分あなた方のものと違い、ああ上品なお嬢様方、あなた方には中身を与えて、私には香りをということですか。</p> <p>とんでもない、味見したいわ、なんておいしいの！</p> <p>誰か来る。あら、お嬢様達よ！</p> <p>お嬢様方、さあ朝食ですよ。</p> <p>一体、何ををするのですか。</p>
第 9 景	Che cosa è nato?	何か起きたのですか。
	Padrone, dico!...	お嬢様達、おっしゃって下さい！…
	Signora Dorabella, signora Fiordiligi, ditemi, che cosa è stato?	ドラベッラ様、 フィオルディリージ様、私におっしゃって下さい、どんな状況ですか。
	Sbrigatevi in buon'ora.	早めに済ませて下さい。
	<u>(ridendo)</u> Non c'è altro? Ritorneran.	<u>(笑いながら)</u> 他にないのですか。帰ってくるでしょう。
	<u>(ridendo)</u> Come chi sa? Dove son iti?	<u>(笑いながら)</u> なぜさあなのですか。 どこに行ったのですか。
	Tanto meglio per loco. Li vederete tornar carichi d'alloro.	彼らにはその方が良いでしょう。 月桂樹を背負って戻ってくる彼らを見られますよ。
	Allora poi tanto meglio per voi.	それではあなた方にとって何よりです。
	<u>La pura verità: due ne perdete, vi restan tutti gli altri.</u>	<u>まさに真実です、彼ら二人を失い、あなた方に他の全ての男が残るのです。</u>
	<u>Brave, vi par, ma non è ver: finora non vi fu donna che d'amor sia morta.</u> <u>Per un uomo morir!</u> <u>Altri ve n'hanno che compensano il danno.</u>	<u>すばらしい、あなた方はそう思われる、でも正しくないのです、今まで愛で死んだ女はいません。</u> <u>一人の男のために死ぬなんて！</u> <u>あなた方にはその損失を補う他の人がいますよ。</u>

	<p>Han gli altri ancora tutto quello ch'hanno essi.</p> <p>Un uom adesso amate, un altro n'amerete: <u>uno val l'altro, perché nessun val nulla.</u></p>	<p>他の人もまた彼らが持っている全ての物を持っているのです。</p> <p>今あなた方は男性を愛しています、他の男の人も愛せるでしょう、どっちみち同じことです、<u>なぜなら誰も全く価値がないからです。</u></p>
	<p>Ma non parliam di ciò; sono ancor vivi, e vivi torneran; ma son lontani, <u>e piuttosto che in vani pianti perdere il tempo, pensate a divertirvi.</u></p>	<p>でもこのことを話すのは止めましょう、彼らはまだ生きています、そして生きて帰ってくるでしょう、でも遠くにいらっしやいます、<u>むしろ無意味な涙に時間を浪費するより、楽しむことを考えなさいませ。</u></p>
	<p>Sicuro!</p> <p><u>E, quel ch'è meglio, far all'amor come assassine,</u> e come faranno al campo; i vostri cari amanti?</p>	<p>もちろん！</p> <p><u>そして、もっと良いことは、殺し屋のように愛することです、それから戦場であなた方の愛しい恋人はどのようなになるのでしょうか。</u></p>
	<p><u>Via via, passaro i tempi da spacciar queste favole ai bambini.</u></p>	<p><u>さあさあ、子供にこんなおとぎ話を吹聴するような時間は過ぎましたよ。</u></p>
	<p>In uomini! In soldati sperare fedeltà?</p> <p><i>(ridendo)</i></p> <p>Non vi fate sentir, per carità!</p> <p>Di pasta simile son tutti quanti: le fronde mobili, l'aure incostanti han più degli uomini stabilità.</p> <p>Mentite lagrime, fallaci sguardi, voci ingannevole, vezzi bugiardi son le primarie lor qualità.</p> <p>In noi amano che il lor diletto, poi ci dispreghiano, neganci affetto, nè val da' barbari chieder pietà.</p> <p>Paghiam, o femmine, d'ugual</p>	<p>男に！兵隊に貞節を望むですって？</p> <p><i>(笑いながら)</i></p> <p>それを聞かれないで下さい、お願いですから！</p> <p>全ての男の性質は似たようなもの、移り気な葉や、気まぐれなそよ風でさえも男達よりも安定性を持っています。</p> <p>見せ掛けの涙、偽りの眼差し、惑わす声、わざとらしい仕草、これらが男の主要な性質です。</p> <p>彼らの楽しみのためにしか私達を愛さない、それから私達を蔑み、愛情を拒む、そんな野蛮人に同情を求める価値もない。</p> <p>仕返ししてやりましょう、ええ私達女</p>

		moneta questa malefica razza indiscreta; amiam per comodo, per vanità. La ra la, la ra la, la ra la la	で、この悪意のある、ぶしつけな人種に、快適さのために見栄のために愛しましょう。 ラララ、ラララ、ララララ。
第 10 景		Chi batte?	誰が叩いているの？
		Ih!	うわあ！
		Ed io niente di lei.	でも私はあなたに何もありません。
		A una fansiulla un vecchio come lei non può far nulla.	娘にはあなたのよう老人は何もできませんよ。
		Me la dona?	それを私にくれるんですか。
		E che vorrebbe?	そして何がほしいの？
		<u>È l'oro il mio giulebbe.</u>	<u>金貨は私の甘い飲み物ですよ。</u>
		Non c'è altro? Son qua.	他にはないのですか。ここにいます。
		Lo so.	知っています。
		Non mi dispiace questa proposizione. <u>Ma con quelle buffone...</u> basta, udite: son giovani, son belli, e sopra tutto hanno una buona norsa i vostri concorrenti?	その提案気に入ったわ。 <u>でもあの道化の姉妹に...</u> でもいいわ、聞かせて、若くて美しくて、それ以上にあなたの仲間は立派な財布を持っているのですか。
第 11 景		E dove son?	そして彼らはどこにいるのですか。
		Direi di sì.	ええ、いいですよ。
		<u>(da sè, ridendo)</u> Che sembianze! Che vestiti! Che figure! Che mustacchi! Io non so se non Vallacchi, o se Turchi son costor.	<u>(一人で、笑いながら)</u> なんて顔つき！なんて服！なんて姿なの！なんて口ひげ！ 私はあいつらがワラキア人かどうか、トルコ人かどうか分からないわ。
		Per perlarvi schietto schietto, hanno un muso fuor dell'uso, vero antidoto d'amor. <u>(ridendo da sè)</u> Che figure! Che mustacchi! Io non so se no Vallacchi, o se Turchi son costor.	率直に言うと、珍しい顔をしています、本当の愛の解毒剤です。  <u>(笑いながら)</u> なんて姿かしら！なんて口ひげ！ 私はあいつらがワラキア人かトルコ人か分からないわ。
		Le padrone!	お嬢様達！

第 13 景	Ah madame, perdonate! Al bel piè languir mirate due meschin, di vostro merto spasimanti adorator. (& Fer., Gug.)	ああご婦人方、許して下さい！ 美しい足元で二人のやつれた哀れな男 を見てください、あなた方の功績に崇拜 し、恋焦がれて。
	Deh calamate quello sdegno! (& Fer., Gug.)	ああその怒りをしずめて下さい！
	Mi dà un poco di sospetto quella rabbia e quel furor. (& D.A.)	あの怒りと興奮は私に少し疑いを抱か せる。
	Li conoscete voi?	あなたは彼らを知っているのですか。
	Le povere padrone stanno nel giardinetto a lagnarsi coll'aria e colle mosche d'aver perso gli amanti.	<u>かわいそうなお嬢さん達</u> は、恋人を失っ たことを風やハエに嘆くために小庭園 にいますよ。
	<u>Io lo farei: e dove piangon esse io riderei.</u> <u>Disperarsi, strozzarsi, perchè parte un amante?</u> <u>Guardate che pazzia!</u> <u>Se ne pigliano due s'uno va via.</u>	<u>私はそのようにします、私は泣くところ は笑いますよ。</u> <u>恋人が出かけたから絶望し、息が詰まる ですって？</u> <u>なんて狂気の沙汰か考えて下さい！</u> <u>一人がどこかへ行ったのなら二人捕ま えるのです。</u>
	É legge di natura, e non prudenza sola: amor cos'è? Piacer, comodo, gusto, gioia, divertimento, passatempo, allegria: non è più amore se incomodo diventa: se invece di piacer nuoce e tormenta.	それが自然の掟で分別だけではない、恋 とは何？ 喜び、快適さ、楽しみ、幸せ、娯楽、気 晴らし、陽気さ、もし不都合になったら、 もう愛ではない、喜びの代わりに傷つけ たり苦しめるなら。
	Quelle pazze faranno a modo nostro.  È buon che sappiano d'essere amate da color.	<u>あの変わり者達</u> は私達の方法を実行す るだろう。 彼らに愛されていることが分かれば素 晴らしい。

		Dunque riameranno.	だから互いに愛し合うようになりますよ。
		<u>Diglielo, si suol dire, e lascia fare al diavolo.</u>	よく人が言うように、悪魔に任せなさいと。
		<u>A me lasciate la briglia di condur tutta la macchina.</u>	からくりの全てを動かす厄介事は私にさせて下さい。
		<u>Quando Despina macchina una cosa non può mancar d'effetto: ho già menati mill'uomini pel naso, saprò menar due femmine.</u>	デスピーナが事を企めば効果が出ないことはあり得ない、私は既に千人の男を手玉に取ってきた、二人の女性もそうできるでしょう。
		<u>Son ricchi i due monsù mustacchi?</u>	二人のひげの閣下は裕福かしら？
		Dove son?	どこにいるの？
		Ite e sul fatto per la picciola porta a me riconduceteli: v'aspetto nella camera mia: purché tutto facciate quel ch'io v'ordinerò, pria di domani, i vostri amici canteran vittoria: ed essi avranno il gusto, ed io la gloria.	では、小さなドアから私の元へ引き戻して下さい、私の部屋で待ちます、もし私があなた方に指示したことを全てやれば、明日までに、あなたの友達は勝利を宣言するでしょう、そして彼らは満足し、私は栄光を味わうでしょう。
第 15 景	第	Chi mi chiama?	誰が私を呼んでいるの？
	15	Cosa vedo!	何を見ているのかしら（どうしたの）？
	景	Morti i meschini io credo, o prossimi a spirar.	私はかわいそうな人達死んでいると思います、そうでなければ息を引き取りそうです。
		Abbandonar i miseri saria per voi vergogna: soccorrerli bisogna.	かわいそうな人を置き去りにすればあなた方にとって不名誉になるでしょう、助ける必要があります。
		Di vita ancor dan segno: colle pietose mani fate un po' lor sostegno; e voi con me correte: un medico, un antidoto voliamo a ricercar.	まだ生きている気配があります、その慈悲深い手でちょっと彼らを支えて下さい、そしてあなたは私と急いで向かいましょう、医者と解毒剤を探したいのです。
	第	<i>Salvete amabiles bones puellas!</i>	素敵なみなさん、ご機嫌いかがですか。

16 景	Come comandano dunque parliamo: so il greco e l'arabo, so il turco e il vandalo; lo svevo e il tartaro so ancor parlar.	命令されたように従って話しましょう、ギリシャ語やアラビア語を知っています、ドル古語やヴァンダル語も知っています、スウェーデン語やタタール族の言葉も話します。
	Saper bisognami pria la cagione e quindi l'indole della pozione: se calda, o frigida, se poca, o molta, se in una volta, ovvero in più.	私にはまず原因とそれから水薬の性質を知る必要がある、熱いか冷たいか、少しだったのか、たくさんか、一度だけか、あるいはもっとか。
	Non vi affannate, non vi turbate; ecco una prova di mia virtù.	心配しないで下さい、動揺しないで下さい、私の力を証明しましょう。
	Questo è quel pezzo di calamita: pietra mesmerica! Ch'ebbe l'origine nell'Alemagna, che poi si celebre là in Francia fu.	これがあの磁石の小片です、メスメル石ですよ！ これはドイツで発生し、その後あっちのフランスで有名になりました。
	Ah lor la fronte tenete su.	ああ彼らの頭を上を保って下さい。
	Tenete forte! Corraggio! Or liberi siete da morte.	強く支えて下さい！元氣を出して下さい！ 今死から解き放たれますよ。
	Son effetti ancor del tosco, non abbiate alcun timor.(&D.A.)	まだ毒の影響です、何も恐れることはない。
	Sono effetti ancor del tosco. (&D.A.)	まだ毒の影響です。
	In poch'ore lo vedrete, per virtù del Magnetismo finirà quel parossismo, torneranno al primo umor. (&D.A.)	あと少しで見られますよ、磁石の力での発作は止み、始めの気分に戻るでしょう。
	Son effetti ancor del tosco, non abbiate alcun timor.(&D.A.)	まだ毒の影響です、何も恐れることはない。
	Secondate per effetto di bontate. (&D.A.)	親切のために手助けして下さい。
	<u>Un quadretto più giocondo non si vide in tutto il mondo; quel che più mi fa da ridere è quell'ira e quel furor. (&amp;D.A.)</u>	<u>これより愉快な情景は世界中で見られない、私が笑わせられるのは、あの怒りと興奮だ。</u>

		<p><u>Un quadretto più giocondo non si vide in tutto il mondo; quel che più mi fa da ridere è quell'ira e quel furor.</u></p> <p><u>Ch'io ben so che tanto foco cangerassi in quel d'amor. (&amp;D.A.)</u></p>	<p><u>これより愉快な情景は世界中で見られない、私が笑わせられるのは、あの怒りと興奮だ。</u></p> <p><u>私はこの炎が愛の炎に変わることをよく知っている。</u></p>
第 2 幕	第 1 景	<p><u>Andate là, che siete due <b>bizzarre ragazze!</b></u></p>	<p><u>とんでもない、なんて二人は変わっている娘さんですこと！</u></p>
		<p>Per me nulla.</p>	<p>私のためには何も。</p>
		<p>Per voi.</p>	<p>あなた方のためです。</p>
		<p>Per voi, siete voi donne, o no?</p>	<p>あなた方のために、あなた方は女性ですよ、それとも違いますか。</p>
		<p>E per questo dovete far da donne.</p>	<p>そのためには女性らしくしなければなりません。</p>
		<p>Trattar l'amore en bagatelle.</p> <p><u>Le occasioni belle non negliger giammai; cangiar a tempo, a tempo, a tempo esser costanti, coquettizzar con grazia, prevenir la disgrazia sì comune a chi si fida in uomo, mangiar il fico, e non gittare il pomo.</u></p>	<p>愛と付き合うことは無駄です。</p> <p><u>素晴らしいチャンスは決してないがしろにしない、時によって変えて、時によって誠実に、愛想よく媚を売り、男に信頼を寄せる人に平凡な不運が起こらないようにし、イチジクを食べて、リングは捨ててはいけません。</u></p>
		<p><u>Io già le faccio.</u></p> <p><u>Ma vorrei che anche voi per gloria del bel sesso faceste un po' lo stesso: per esempio, i vostri Ganimedi son andati alla guerra; infin che tornano fate alla militare: reclutate.</u></p>	<p><u>私は既にやっています。</u></p> <p><u>でもあなた方にも女性の栄光のために、ちょっと同様にやってほしいのです、たとえば、あなた方のガニメデスは戦争に行きました、彼らが帰ってくるまで軍隊式にして下さい、徴募するのです。</u></p>

	<p>Eh che noi siamo in terra, e non in cielo!</p> <p>Fidatevi al mio zelo: già che questi forastieri v'adorano, lasciatevi adorar.</p> <p>Son ricchi, belli, nobili, generosi, come fede fece a voi Don Alfonso; avean coraggio di morire per voi; questi son meriti che sprezzar non si denno <b>da giovani qual voi belle e galanti; che pon star senza amor, non senza amanti.</b></p> <p><u>(Par che ci trovin gusto.)</u></p>	<p>ああ私達はこの世にいるのです、天国ではないわ！</p> <p>私の熱意を信用して下さい、あの外国人達はあなた方を既に崇めています、崇めさせておくのです。</p> <p>彼らは裕福で、美しく、気高く、気前が良い、ドン・アルフォンソがあなた方に保証したように、あなた方のために死ぬ勇気もあります、これは、<b>あなた方のように若く美しく優雅な、愛や恋人なしではいられない女性</b>から軽蔑されるべきではない価値がある。</p> <p><u>(楽しみを見つけたようね。)</u></p>
	<p>E chi dice che abbiate a far loro alcun torto?</p>	<p>彼らにいくらか過ちを犯すようにと誰が言っていますか。</p>
	<p>Anche per questo c'è un mezzo sicurissimo; io voglio sparger fama che vengono da me.</p>	<p>そのことについても安全な手段があります、私は私のところへ来るという評判を言いふらすつもりです。</p>
	<p>Oh bella! <u>Non ha forse merto una cameriera d'aver due cicisbei?</u></p> <p>Di me fidatevi.</p>	<p>何てこと！まさか小間使いには二人の色男を持つ価値もないということ？</p> <p>私を信用して下さい。</p>
	<p>(Che disgrazia!)</p> <p>Io posso assicurarvi che le cose che han fatto furo effetti del tossico che han preso.</p> <p>Convulsioni, deliri, follie, vaneggiamenti; ma or vedrete come son discreti, manerosi, modesti e mansueti.</p> <p>Lasciateli venir.</p>	<p>(なんて厄介事！)</p> <p>私は彼らが起こしたことは飲んだ毒の影響によるものと保証できます。</p> <p>痙攣、錯乱、狂気、せん妄状態、でも今彼らがどんなに節度があって、親切で、謙虚で穏やかな人か分かるでしょう。</p> <p>彼らに來させましょう。</p>
	<p>E poi...caspita!</p> <p>Fate voi.</p> <p><u>(L'ho detto che cadrebbero.)</u></p>	<p>その後…おやまあ！</p> <p>あなた方がおやりなさい。</p> <p><u>(私が言った通りに落ちるわ。)</u></p>

		<p>Quel che volete. Siete d'ossa, e di carne, o cosa siete?</p>	<p>したいことをしなさい。 あなた方は骨と肉製です、そうでなければ何製ですか？</p>
		<p>Una donna a quindici anni dee saper ogni gran moda: dove il diavolo ha la coda, cosa è bene, e mal cos'è.</p> <p>Dee saper le maliziette che innamorano gli amanti: finger riso, finger pianti, inventer; bei perchè.</p> <p>Dee in un momento dar retta a cento, colle pupille parlar con mille, dar speme a tutti sien belli, o brutti, saper nascondersi senza confondersi, senza arrossire saper mentire, e qual regina dall'alto soglio col posso e voglio farsi ubbidir.</p> <p>(Par ch'abbian gusto di tal dottrina, viva Despina che sa servir.)</p>	<p>女も 15 歳になったらあらゆる慣習を知らなければいけない、悪魔がどこに尻尾を持っているか、何が良くて、何が悪いのか。</p> <p>恋人に惚れさせる策略を知らなければいけない、笑うふり、泣く素振り、うまい理由を考えなさいませ。</p> <p>一度に 100 人の声に耳を傾け、瞳で 1000 人に語りかけ、かっこよくても悪くても、全ての人に希望を与えなさい、まごつかずに気持ちを隠し、赤面しないで嘘をつくのです、そしてまるで女王のように高い玉座から力と意志で服従させるのです。</p> <p>(この教えが気に入ったようね、万歳、役に立てるデスピーナ。)</p>
第 4 景		Animo, via, coraggio: avete perso l'uso della favella?	しつかり、さあ、勇気を出してください、話す能力を失ったのですか。
		<p>Per voi la risposta a loro darò.</p> <p>Quello ch'è stato è stato.</p> <p>Scordiamci del passato; rompasi omai quel laccio, segno di servitù.</p> <p>A me porgete il braccio: né sospirate più.</p>	<p>あなた方のために私が彼らに返事をします。</p> <p>済んだことは済んだことです。</p> <p>過ぎたことは忘れましょう、もはや奴隷の印のその紐が断ち切られるように。</p> <p>私に腕を差し出してください、もうため息をつかないで下さい。</p>
		<p>Per carità, partiamo, quel che san far veggiamo.</p> <p><u>Le stimo più del diavolo s'ora non cascan giù.(&amp;D.A.)</u></p>	<p>とんでもない、行こう、彼らがどうするか見守ろう。</p> <p><u>彼女達が下に落ちなかったら、悪魔より尊敬する。</u></p>
	第 10	Ora vedo che siete una donna di garbo.	今嗜み深い女性か分かりますよ。

景	Corpo di satanasso, questo vuol dir saper!	何ということでしょう、これが分かるということです！
	<u>Tanto di raro noi povere ragazze abbiamo un po' di bene, che bisogna pigliarlo allor ch'ei viene.</u>	<u>ごくまれに私達哀れな娘は少しの良いことに恵まれます、それが訪れた瞬間つかむ必要があります。</u>
	<i>(entra Fiordiligi)</i>	<i>(フィオルディリージが入ってくる)</i>
	Ma ecco la sorella.	でもあら、お姉様ですよ。
	Che ceffo!	なんて不機嫌そうな顔！
	Cosa è nato, <b>cara madamigella?</b>	何があったのですか、 <b>愛しいお嬢様？</b>
	Meglio, meglio!	よくなってきた！
	Ma brava!	すばらしい！
第 11 景	Voi non saprete nulla!	あなたは何もできないわ！
	Cosa c'è?	どうしましたか？
	E che volete fare?	何をするおつもりですか。
	(Comanda in abrégé <b>donna arroganza.</b> )	(要約して命令する、 <b>尊大な人。</b> )
	Eccomi.	さあどうぞ。
第 14 景	Sarà servita. (Questa donna mi par di senno uscita.)	かしこまりました。 (この人は理性が出て行ったように見える。)
	Vittoria, padroncini!	勝利です、旦那様達！
	A sposarvi disposte son <b>le care madame</b> ; a nome vostro loro io promisi che in tre giorni circa partiranno con voi: l'ordin mi diero di trovar un notaio che stipuli il contratto; alla lor camera attendendo vi stanno. Siete così contenti?	<b>愛しいお嬢様方</b> はあなた方と結婚する気ています、あなた方と共におよそ三日以内に出發すると、あなた方の代わりに私は彼女達と約束しました、そして契約を交わすために公証人を見つけることを命令しました、彼女達は部屋であなた方を待っています。 満足ですか？
第 15 景	<u>Non è mai senza effetto quand'entra la Despina in un progetto.</u>	<u>デスピーナが計画に参加すれば効果がないことは決してないわ。</u>
	Fate presto, o cari amici, alle faci il fuoco date e la mensa preparate con ricchezza e nobiltà! Delle nostre padroncine gl'imenei	早くしなさい、ああ親切な友よ、松明に火をつけて、テーブルにたくさん上品に用意して！ 私達の御主人様達の婚礼は既に整って

第 17 景	son già disposti e voi gite ai vostri posti finché i sposi vengon qua.	います、ここに新郎新婦が来るまであなたたちは自分の場所にいなさい。
	<i>(piano, partendo)</i> <u>La più bella commediola non s'è vista, o si vedrà.(&amp;D.A.)</u>	<i>(小声で、出て行く)</i> <u>これ以上面白い喜劇は見たことがない、 また見ることはできないだろう。</u>
	Augurandovi ogni bene il notaio Beccavivi coll'usata a voi sen viene notarile dignità. E il contratto stipulato colle regole ordinarie nelle forme giudiziarie, pria tossendo, poi sedendo, <i>(pel naso)</i> clara voce leggerà.	公証人ベッカヴィーヴィはあらゆる幸せを 祈り、慣例の公証人らしい尊厳を持ち、 あなた方の元へ来ました。 契約は裁判上の形態の正規の慣習で取り 決められ、始めに咳をし、その後座り、  <i>(鼻声で)</i> 声高く読みます。
	<i>(pel naso)</i> Per contratto da me fatto, si congiunge in matrimonio Fiordiligi con Sempronio e con Tizio Dorabella sua legittima sorella, quelle dame ferraresi, questi nobili albanesi e per dote e contra dote...	<i>(鼻声で)</i> 私によって作られた契約によって、センプ ローニオとフィオルディリージ、ティーツィオ と彼女の正当な妹であるドラベツラを結婚 させます、フェラーラ出身の女性と、アルバ ニア出身の高貴な方、持参金と補助金 は...
	Bravi bravi in verità!(&D.A.)	実に素晴らしい、素晴らしい！
	Che rumor! Che canto è questo! (&Fio.,Dor.,Fer.,Gug.)	何という音！ これは何の歌！
	Ma se ci(il) veggono? Ma se ci(li) incontrano? (&Fer.,Gug.,D.A.)	でももし私達(彼ら)を見たら？ でももし私達(彼ら)と出くわしたら？
	Non signor, non è un notaio; è Despina mascherata, che dal ballo or è tornata, e a spogliarsi or venne qua.	いいえ旦那様、公証人ではありません、 仮装したデスピーナですよ、舞踏会から 今戻ってきて、ここに服を脱ぎに来たの です。
	<u>Una furba che m'agguagli dove mai si troverà?</u>	<u>私に匹敵する抜け目ない女はどこで見 つけられるかしら！</u>
	Stelle, che veggo! (&Fio.,Dor.)	まあ、何をみているのかしら！（どうし たこと！）

	<p>A duol non reggo! (&amp;Fio.,Dor.)</p>	<p>悲しみに耐えられない！</p>
	<p>Io non so se veglio o sogno, mi confondo e mi vergogno: <u>manco mal se a me l'han fatta, ch'a molt'altri anch'io la fo.</u></p>	<p>私は目が覚めているか夢を見ているか分からない、混乱して恥ずかしい、<u>まあ思ったより悪くない、もし私を騙したなら、私も他のたくさんの人をそうするわ。</u></p>
	<p>Fortunato l'uom che prende ogni cosa pel buon verso, e tra i casi e le vicende da ragion guidar si fa. Quel che suole altrui far piangere fia per lui cagion di riso, e del mondo in mezzo ai turbini bella calma troverà.(tutti)</p>	<p>あらゆることを良い方にとらえ、どんな事情の中でも人生の浮き沈みを理性で操る人は幸福だ。 他の人は泣いてしまうのが常なのに、彼らにとっては笑いの動機であり、世間の荒波の真ん中でも素敵な静けさを見つけるだろう。</p>

#### 第四節 モーツァルト作曲《フィガロの結婚》のスザンナ

《フィガロの結婚》は四つのオペラの中で最も登場人物が多く、幕数も多い。それに伴って登場人物の台詞の数も最も多い。にもかかわらずスザンナの性質にまで言及してある台詞は思った以上に少なく、また、「愛らしい〜」や「僕の心」や「僕の宝」、「僕の優しい愛」などのような表現も台詞の量からすると多くはない。しかし、スザンナに呼びかける台詞や、スザンナがいない所で他の登場人物達がスザンナのことを話題にする場面は多く、他の登場人物達の台詞の中には彼女の名前は頻繁に登場する。このことから、スザンナがこのオペラの中心人物の一人であると言えるし、他の登場人物から何かと注目される人物であることが分かる。マルチェッリーナはスザンナをライバル視している人物である。前半の彼女の台詞からはスザンナへの嫌悪感が見て取れる。例えば、聞こえるような大きな声で「あの立派な真珠」と皮肉ったり、お辞儀しながら「輝くお嬢さん」や「伯爵の恋人」と呼びかけ、伯爵に言い寄られていることを揶揄したりする。しかし、マルチェッリーナのスザンナについての、「慎ましい目、あのやさしそうな雰囲気」や「あの顔、あのしとやかな雰囲気…」という発言や、フィガロも「あのいとしい可憐な顔」や「あの純真な顔で…無邪気なあの目で…」とスザンナのことを表していることから、スザンナの外見に上品さやかわいらしさがあることが読み取れる。

ケルビーノは伯爵夫人への愛情を示しながら、スザンナに対しても、「僕の心」、「僕のスザンナ」、「お姉さん」や「スザンネッタ」などと呼びかけており、スザンナを姉のように慕い、スザンナへの親愛の情も示している。伯爵もスザンナの愛らしさに魅了された一人

だが、スザンナを口説くために「私のいとしい人」や「私の宝」、「私の美しいヴィーナス」のように甘い言葉をかける。しかしその一方で、ケルビーノとの仲を疑って「何という厚かましさ」と非難したり、自分を欺いていることに勘付いて「裏切り者達！」と罵り、「私に抱いていない愛情を、私に起こさせた女（スザンナ）が、愛の手で価値のない男（フィガロ）と結ばれるのを私は見るのだろうか。」と怒りをあらわにする場面もあり、スザンナが単に魅力的な娘ではなく、伯爵を翻弄する頭脳を持った人物であることは想像に難くない。では、伯爵夫人はスザンナにどのような思いを抱いているだろうか。「おいで、かわいいスザンナ、話を私にしてちょうだい。」という台詞や、何度も「スザンナ」と呼びかけていることから、スザンナに対する親近感や信頼を感じるが、「あなたのお気に入りの娘」や「今となっては私の小間使いに助けを要求させるのよ！」という台詞からは、小間使いという彼女の身分や、また愛する自分の夫に誘惑されていることが影響してか、幾分恨めしく思う気持ちや見下す気持ちが表れている。4 幕、フィガロはスザンナが自分を裏切っていると誤解して、スザンナに対しての「恩知らず」、「不実な女」などの恨みの表現が増えるが、それは本来のスザンナの性質であるとは言えない。しかし、自分の誤解とスザンナの思惑に気付いたフィガロの、「キツネは僕を騙したいんだ、ではそれを満たしてやろう。」という独白において用いられている「volpe」には、「キツネ」の意味の他、「狡猾な人、抜け目のない人」（『伊和中辞典』より）という意味もあり、スザンナの計算高さを示している言葉である。スザンナ以外の登場人物の台詞からは、彼女の上品さと明朗さを兼ね備えた魅力を読み取れる。伯爵を罠にはめようと伯爵夫人と画策するが、そこには腹黒さより利発さがあり、周囲の人物が彼女を頼りにする場面も多い。

スザンナ自身の台詞はセルピーナ、ツェルリーナ、デスピーナの三人のものと比べて非常に多い。またスザンナは、《フィガロの結婚》に登場する全ての登場人物の中で、最も頻繁にこのオペラに登場する。特に前半の第1幕と第2幕は、ほとんど絶え間なく舞台上にいる。

次にスザンナ自身の台詞に注目する。第1幕第1景は、結婚式当日のフィガロとの会話が書かれている。親しみや愛情を込めて「私のいとしいフィガロ」や「私のいとしいフィガレット」、「素敵なフィガロ」と呼びかける一方で、伯爵が結婚の祝いに部屋をくれた本当の理由を教えてほしいと言うフィガロに、「なぜならそうしたくないのよ。あなたは私の下僕よ、それとも違うの?」と言って教えるのを拒んだり、「私がスザンナで、あなたが馬鹿だからよ。」とフィガロの人が好すぎる性格を皮肉ったりして揶揄している。しかしフィガロのスザンナへの愛情や、スザンナのフィガロに対する信頼、二人の仲の良さが感じることが出来る場面である。第4景では、年甲斐もなくフィガロに思いを寄せる女中頭のマルチェッリーナへの対抗心が読み取ることができる。お互いに道を譲ろうとわざとらしくお辞儀をしながら、嫌味を言い合う。最後は「年老いた巫女、私を笑わせるわ。」などと言われ、若いスザンナに気圧されマルチェッリーナが退散するが、第5景での「あっちへ行って、小うるさいばあさん、尊大な学者、少し本を読んだからといって若い頃は奥様を悩ませたりして…」という台詞には、スザンナが自分の主人を過去に苦しめた恨みを持っていることが表れており、それをはらそうとマルチェッリーナに辛らつな態度で接していると推測できる。第5景から第8景にかけては、スザンナの下に次々にケルビーノ、伯爵、バジーリオの三人がやって来て、それぞれの言動に動揺する様子が書かれている。特にス

ザンナが伯爵に言い寄られる場面は、ドン・ジョヴァンニに誘惑されるツェルリーナを連想させるが、スザンナにはツェルリーナのような軽薄さは見られない。むしろ困惑しながらも自分の意志を貫こうとする心の強さを感じる。また、バジーリオと伯爵がかち合って騒動が起きそうになると、失神してその場をやり過ごそうとするなど機転が利く人物であることが分かる。

第2幕第2景は、ケルビーノの女装をスザンナが手伝う場面だが、ケルビーノのかわいらしさに驚きからかい、伯爵夫人にその同意を求めたり、時には夫人から指摘を受けたりしながら準備する楽しそうな様子が、良好な主従関係を物語っている。そこに浮気を疑う伯爵がやって来て夫人を問い詰めるのを見たスザンナは慌てるが、ケルビーノが無事に逃げたのを見てからは、スザンナの強気な発言が増えていく。「でも時間を無駄にはできない、化粧室に入りましょう、ほら吹きさん来なさい、私はここで待っているわよ。」と言って、伯爵を待ち構え、ケルビーノがいないことに驚いた伯爵に「旦那様、その驚きは何ですか。剣を持ち、小姓を殺して下さい、あの粗野な小姓を、ここで見つけて下さい。」と皮肉たっぷりに言い放つ。それでもなお動揺している夫人には、ケルビーノが窓から逃げたことを示しながら「もっと楽しくもっとのびのびと彼はもう無事ですよ。」と陽気に話して聞かせ、今度は二人で結託して「あなたの狂気は同情に値しません。」と伯爵を懲らしめる。しかし、夫人の怒りを鎮めようと謝る伯爵がスザンナに助けを求めると、スザンナは夫人をなだめ、説得するなど臨機応変に行動し、その場をやり過ごすことに成功する。スザンナは小間使いとして、伯爵からもその手腕を当てにされ、頼りになる存在として認められているのである。第9景からは、事態が収束に向かったと思いきや、フィガロと庭師のアントニオの

登場によって伯爵の疑惑が再燃する。しかし窓から飛び降りたのは、ケルビーノではなく自分だというフィガロの咄嗟の一言によって助けられ、またフィガロとスザンナ、伯爵夫人による連携プレイによって切り抜ける場面であり、ここではフィガロの機転と三人のチームワークの良さが際立っているため、スザンナ個人の力量や活躍は目立って見られない。

第3幕第2景では、伯爵を畏にはめるためにスザンナは前半の態度を一転させて意図的に伯爵の誘いに乗ろうとして、その真意を何度も確かめようとする伯爵を従順な態度によって信じ込ませる。しかし「たとえ騙しても許してください、恋愛を知っている人たち。」というスザンナの台詞からは、伯爵夫人を助けるという目的であっても騙すという行為に対しては少し抵抗を感じている様子を窺えるが、その後フィガロには「弁護士なしですすでに訴訟に勝ったわよ」と確信を持って話しており、悪賢い一面も見える。また第4幕のスザンナのいくつかの言動には、はっきりと狡猾さが表れている。第10景の「ならず者は見張りをしている、私達もまた楽しみましょう、彼の疑いによる報いを与えてやりましょう。」という台詞には、「仕返ししてやりましょう、ええ私達女で、この悪意のある、ぶしつけな人種に、快適さのために見栄のために愛しましょう。」というデスピーナの考えに通じるものがあるし、第13景におけるフィガロへの激しい平手打ちや、「ここから一歩も動かないわ、でも敵を討ちたいのよ」や「〈私は非道な人を騙したいのよ、〉」という台詞からは、ツェルリーナのような気性の荒さを感じさせる。

スザンナは利口な人物で、その頭脳の明晰さから周囲の人々の信頼を得ている。また、主人である伯爵夫人に忠誠を尽くし、その主人に苦しみをもたらしているのが自分の先輩の女中頭であろうと、伯爵であろうと、躊躇することなく仕返ししようとする。自分が働

く屋敷の主人が伯爵であるのにもかかわらず、あくまでも自分が仕えるのは伯爵夫人であるため、彼女の幸せを守ることを最優先にしており、女中の鏡のような人物である。加えて、恋人に対しても誠実な態度を貫こうとしており、軽薄な部分がなく堅実な性質を持っていると言える。しかし、悪事を働く者に対する気性の激しさや、計画を成功させるために悪い方に知恵を働かせるといった要領のよさをも持ち合わせた女性である。

表Ⅶ スザンナ以外の登場人物による登場人物

- ※ Fig.=フィガロ、Il C.=伯爵、La C.=伯爵夫人、M=マルチェッリーナ、D.B.=ドン・バジーリオ、Bartolo=バルトロ、S=スザンナ
- ※ 太字→スザンナの呼称、下線部→スザンナの性質を特に表す部分

話者	台 詞	訳
Fig.	Sì <b>mio core</b> , or è più bello, sembra fatto inver per te.	ああ <b>僕の心</b> よ、さらにきれいだ、君に本当に合っているようだね。
Fig.&S	Ah il mattino alle nozze vicino quanto è dolce al tuo tenero sposo questo bel cappellino vezzoso che <b>Susanna</b> ella stessa si fè.	ああ結婚間近の朝、 <b>スザンナ</b> 自ら作ったこの美しくかわいたしい帽子は君の優しい花婿になんと甘美なんだろう。
Fig.	<b>Susanna</b> pian pian.	<b>スザンナ</b> ちょっとゆっくり。
	Coraggio <b>mio tesoro</b> .	勇気を、 <b>僕の宝</b> よ。
	Voi ministro, io corriero, e la <b>Susanna</b> ...secreta ambasciatrice: non sarà non sarà.	あなたは大臣、俺は馬車で、 <b>スザンナ</b> は…秘密の大使夫人、そうはならない、そうはいかない。
M	So io...basta...conviene la <b>Susanna</b> atterrir.	私は知っているわ…もういいわ… <b>スザンナ</b> を怖がらせて変えるのです。
	Ma <b>Susanna</b> si avanza: io vo' provarmi...fingiam di non vederla.	ところで <b>スザンナ</b> が来るわ、私が張り合ってみたい…彼女に気付かないふりをして。
	E <b>quella buona perla</b> la vorrebbe sposar!	あの立派な <b>真珠</b> と結婚したいのね！
	<u>Con quegli occhi modesti, con quell'aria pietosa,</u>	<u>あの慎ましい目、あのやさしそうな雰</u> <u>囲気で、</u>
	〈 <b>Che cara sposa!</b> 〉	〈なんて愛らしい花嫁！〉
	Via resti servita, <b>madama brillante</b> :	さあお先に、 <b>輝くお嬢さん</b> 、
	<b>La sposa novella!</b>	初々しい花嫁！
	<b>Del conte la bella!</b>	伯爵の恋人！
Che.	<b>Susannetta</b> sei tu?	君は <b>スザンネッタ</b> だよね？
	Ah <b>cor mio</b> , che accidente!	ああ <b>僕の心</b> 、なんて災難だ！
	<b>Susanna mia!</b>	<b>僕のスザンナ！</b>
	<b>Felice te,</b>	幸せな君、

	Deh dammelo <b>sorella</b> ,	ああそれを下さい、お姉さん、
Il C.	<b>Susanna</b> , tu mi sembri agitata e confusa.	スザンナ、お前は動揺し困惑しているように見える。
	Parla, parla <b>mia cara</b> ,	話さない、話さない、私のいとしい人、
	Ah no <b>Susanna</b> , io ti vo' far felice!	ああいいやスザンナ、私はお前を幸せにしたいのだ！
Basilio	<b>Susanna</b> ,	スザンナ、
Basilio & Il C.	Ah già svien <b>la poverina</b> !	ああすでにかわいそうな娘は失神している！
Il C.	Siamo qui per aiutarti, non turbarti, oh <b>mio tesor</b> .	私たちはお前を助けるためにここにいる、心配するな、ああ私の宝よ。
	<b>Onestissima signora</b> !	実に誠実なお嬢さんだ！
	Restate: <b>che baldanza</b> ! E quale scusa se la colpa è evidente?	残りなさい、何という厚かましさ！ 罪は明らかなのにどんな言い訳を？
Fig.	secondami, <b>cor mio</b>	僕に続いてくれ、僕の心よ
Il C.	Via per l'ultima volta la <b>Susanna</b> abbracciate.	さあこれを最後にスザンナを抱きしめるのだ。
La C.	Vieni, <b>cara Susanna</b> , finiscimi l'istoria.	おいで、かわいいスザンナ、話を私にしてちょうだい。
Fig.	E se <b>Susanna</b> vuol possibilissima.	そしてスザンナが望めば実にあり得る。
La C.	Quanto duolmi, <b>Susanna</b> ,	どんなに悲しいか、スザンナ、
	<u>Finiam le ragazzate:</u>	<u>子供っぽい行為はやめましょう、</u>
	<u>E segui a far la pazza?</u>	<u>馬鹿げたことをし続けるの？</u>
	Certe robe...era meco la <b>Susanna</b> ...	いくつか服を…スザンナと一緒にいました…
	Ah sì, <b>Susanna</b> ...appunto...	ああええ、スザンナ…まさに…
Il C.	<b>Susanna</b> !	スザンナ！
La C.	<i>(con un risolino sforzato)</i> Per la <b>mia cameriera</b> ?	<i>(不自然にうすら笑いして)</i> 私の小間使いのために？
	Ah <b>questa serva</b> più che non turba me turba voi stesso.	あらあの小間使いは私よりもあなた自身を動揺させるでしょう。
Il C.	<b>Susanna</b> or via sortite,	スザンナ、さあ早く外に出てきなさい、

	<b>Susanna</b> se qui siete...	スザンナがもしここにいるなら…
	<b>Susanna</b> starà qui finchè torniamo.	私達が戻るまでスザンナはここにいるだろう。
	Non è dunque <b>Susanna</b> !	つまりスザンナではない！
La C.	〈Che storia è mai questa; <b>Susanna</b> v'è là.〉	〈これは一体どんな話かしら、スザンナがあそこにいる。〉
	<b>Susanna</b> , son morta:	スザンナ、死んでしまうわ、
Il C.	Quell'ira <b>Susanna</b> m'aita a calmar.	あの怒りを鎮めるのを手伝ってくれ、スザンナ。
	Quell'ira <b>Susanna</b> m'aita a calmar.	あの怒りを鎮めるのを手伝ってくれ、スザンナ。
La C.	Ah quanto <b>Susanna</b> , son dolce di core!	ああスザンナ、何て私は甘い心なのでしょう！
Fig.	Là rinchiuso aspettando <u>quel caro visetto</u> ...	あそこに閉じこもり、 <u>あのいとしい可憐な顔</u> を待っていると…
Il C.	<b>La cameriera</b> in gabinetto chiusa...	化粧室に閉じ込められた小間使い…
	E <b>Susanna</b> ?	スザンナは？
	se tu manchi, oh <b>cor mio</b> ...	もしお前が果たさなかったら、ああ私の心よ…
	<u>Carissima!</u>	<u>実にかわいい！</u>
Fig.	Ehi, <b>Susanna</b> , ove vai?	おい、スザンナ、どこに行くんだ？
Il C.	<b>Perfida!</b>	裏切り者達！
	<u>Vedrò per man d'amore unita a un vile oggetto chi in me destò un affetto che per me poi non ha?</u>	<u>私に抱いていない愛情を、私に起こさせた女が、愛の手で価値のない男と結ばれるのを私は見るのだろうか。</u>
Fig.	Senti, oh <b>cara</b> !	聞いてくれ、ああいとしい人！
M	La sdegno calmate, <b>mia cara figliuola</b> , sua madre abbracciate che or vostra sarà.	怒りを鎮めて、私のいとしい娘よ、すぐにあなたの母になる彼の母を抱きしめておくれ。
La C.	E <b>Susanna</b> non vien!	スザンナは来ない！
	e alfin tradita, fammi or cercar da una <b>mia serva</b> aita!	今となつては私の小間使いに助けを要求させるのよ！
	Come arrossì... <b>Susanna</b> , e non ti pare...che somigli ad alcuno?	なんて赤いのかしら…スザンナ、あなた思わない…誰かに似ていると？
Fig.	<b>Susanna</b> , dammi il braccio.	スザンナ、腕を僕に。

La C.	Ecco qui le due nozze, riceverle dobbiam, alfin si tratta d' <b>una vostra protetta</b> .	さあここで二組の結婚です、認めなければ、ついに <b>あなたのお気に入りの娘</b> ですもの。
Barbarina	La spilla, che a me diede il padrone per recar a <b>Susanna</b> .	ピンよ、旦那様が <b>スザンナ</b> に持っていくようにと私に渡したものよ。
Fig.	A <b>Susanna</b> ...la spilla?	<b>スザンナ</b> に…ピンを？
	questa è la spilla che il conte da recare ti diede alla <b>Susanna</b> ,	これが伯爵がお前に <b>スザンナ</b> に持っていくように渡したピンだ、
Barbarina (Il C.)	Tieni fanciulla reca questa spilla alla <b>bella Susanna</b> :	娘よ、しっかりと <b>美しいスザンナ</b> にこのピンを持っていっておくれ、
	vo da <b>Susanna</b> e poi da Cherubino	<b>スザンナ</b> の所に行って、次はケルビーノの所へ
M	Presto avvertiam <b>Susanna</b> : <u>io la credo innocente: quella faccia, quell'aria di modestia..</u>	早く <b>スザンナ</b> に知らせましょう、 <u>私は彼女の潔白を信じているわ、あの顔、あのしとやかな雰囲気…</u>
Fig.	In questo stesso loco celebrem la festa della <b>mia sposa onesta</b> e del feudal signor...	まさしくこの場所で僕の <b>誠実な花嫁</b> と封建的な主人との祭を祝うのです。
Basilio	<b>Susanna</b> piace al conte:	<b>スザンナ</b> は伯爵に気に入られている、
Fig.	<b>Ingrata!</b>	恩知らず！
	Oh <b>Susanna, Susanna</b> , quanta pena mi costi, <u>con quell'ingenua faccia...con quegli occhi innocenti...</u>	ああ <b>スザンナ、スザンナ</b> 、お前はどれほどの苦しみなのか、 <u>あの純真な顔で…無邪気なあの目で…</u>
	<b>Perfida</b> , e in quella forma meco mentia?	<b>不実な女</b> 、そうやって僕に嘘をついていたのか？
Che.	(alla Contessa) <b>Susannetta</b> ...	(伯爵夫人に) <b>スザンネッタ</b> …
Il C.	Ecco qui <b>la mia Susanna!</b> accostati <b>ben mio</b>	さあここに <b>私のスザンナ</b> が！ 近づきなさい、 <b>私のいとしい人</b>
Fig.	<u>Che compiacente femmina!</u> <u>Che sposa di buon cor!</u>	<u>なんて礼儀正しい女！</u> <u>なんて素晴らしい心を持った花嫁！</u>
Il C.	oh <b>cara</b> ,	ああいとしい人、
	<b>mia bella Venere</b> ,	<b>私の美しいヴィーナス</b> 、
Fig.	<b>La perfida</b> lo seguita,	<b>不実な女</b> は後を追う、
	il Conte e <b>la mia sposa</b> ...	伯爵と僕の花嫁が…

	〈 <b>Susanna!</b> 〉	〈スザンナ!〉
	〈 <u>La volpe vuol sorprendermi, e secondarla vo'.</u> 〉	〈 <u>きつねは僕を騙したいんだ、ではそれを満たしてやろう。</u> 〉
	oh <b>mio felice amor</b>	ああ僕の幸せな愛
	Pace pace, <b>mio dolce tesoro,</b>	仲直り仲直りだ、僕の甘美な宝よ、
	Pace pace, <b>mio dolce tesoro,</b> pace pace, <b>mio tenero amor.</b>	仲直り仲直りだ、僕の甘美な宝よ、仲直り仲直りだ、僕の優しい愛よ。
Il C.	Ehi <b>Susanna...</b>	こらスザンナ...
Fig.&S	La commedia, <b>idol mio,</b> terminiamo, consoliamo il bizzarro amator!	喜劇は、僕の憧れの人よ、終わらよう、怒りっぽい女たらしを慰めよう!
	Ah corriamo, <b>mio bene,</b> e le pene compensi il piacer.	ああ走ろう、私の恋人、苦しみを喜びであがなうのだ。

表Ⅷ スザンナ自身の台詞

※ Fig.=フィガロ、Il C.=伯爵、La C.=伯爵夫人、M=マルチェッリーナ、D.B.=ドン・バジーリオ、Bartolo=バルトロ

※ 下線部→スザンナの性質や考えが読み取れる部分

第 1 幕	第 1 景	Ora sì ch'io son contenta; sembra fatto inver per me.	そうよ、私は満足よ、私に実に合っているようよ。
		Guarda un po', mio caro Figaro, guarda adesso il mio cappello.	ちょっと見てよ、私のいとしいフィガロ、さあ私の帽子を見て。
		Ah il mattino alle nozze vicino quanto è dolce al mio tenero sposo questo bel cappellino vezzoso che Susanna ella stessa si fe'.	ああ結婚間近の朝、スザンナが自分で作ったこの美しくかわいらしい帽子は私の優しい花婿になんと甘美なんだろう。
		Cosa stai misurando, caro il mio Figaretto?	何を測っているの、私のいとしいフィガレット?
		E in questa stanza?...	この部屋に?
		Io per me te la dono.	私はあなたにそれを与えるわ。
		<u>(toccandosi la fronte)</u> <u>La ragione l'ho qui.</u>	<u>(顔を触って)</u> <u>理由はここにあるわ。</u>
		<u>Perché non voglio.</u> <u>Sei tu mio servo o no?</u>	<u>なぜならそうしたくないのよ。</u> <u>あなたは私の下僕よ、それとも違うの?</u>

<u>Perch'io son la Susanna, e tu sei pazzo.</u>	<u>なぜなら私がスザンナで、あなたが馬鹿だからよ。</u>
Così se il mattino il caro Contino, din din; e ti manda tre miglia lontan, don don; a mia porta il diavol lo porta.  Ed ecco in tre salti ...	そんな風にもし朝に親切な伯爵が、ディンディンと、三マイルも遠くにあなたを遣いにやれば、ディンディンと、ドンドンと、私の戸のところに悪魔が彼を連れてくる。 そしてさあ一飛びで…
Ascolta ...	聞いて…
Se udire brami il resto, discaccia i sospetti che torto mi fan.	もし残りを聞きたいなら、私にふさわしくない疑いを追い出してちょうだい。
Or bene; ascolta, e taci!	いいわ、聞いて、黙って！
Il signor Conte, stanco di andar cacciando le straniere bellezze forestiere, vuole ancor nel castello ritentar la sua sorte, né già di sua consorte, bada bene, appetito gli viene ...	伯爵様は、よそ者の美しい外国の女性を追うことに疲れて、館の中で彼の運を再び試みたいと、すでに奥様には、関心がなくなり、欲求もなくなって…
Della tua Susanetta. Di me medesima; ed ha speranza, che al nobil suo progetto utilissima sia tal vicinanza.	あなたのスザンネッタに。 まさしく私に、そして希望を持っているの、彼の高貴な計画にこのような近さが役に立つということ。
Queste le grazie son, questa la cura ch'egli prende di te, della tua sposa.	これがあなたとあなたの花嫁に下さる親切で、心遣いよ。
Chetati: or viene il meglio: Don Basilio, mio maestro di canto, e suo mezzano, nel darmi la lezione mi ripete ogni dì questa canzone.	落ち着いて、今さらに良いことを言うわ、ドン・バジーリオは、私の歌の先生で、あの方の仲介人は、私にレッスンをする時毎日この歌を繰り返す。
<u>E tu credevi che fosse la mia dote merto del tuo bel muso!</u>	<u>それではあなたは、あなたの素晴らしい顔のおかげで私の持参金があると信じているのね！</u>
Ei la destina per ottener da me certe mezz'ore...che il diritto feudale...	彼は私から三十分程あの運を得ようとしている…封建的な権利を…
Ebben; ora è pentito, e par che tenti riscattarlo da me.	それで、今は後悔しているの、私からそれを解除しようとしているみたい。

第 4 景	Addio, addio, Figaro bello ...	さようなら、さようなら、素敵なフィガロ…
	<u>E tu ervello.</u>	<u>あなたは知性を。</u>
	〈Di me favella.〉	〈私のことを言っているわ。〉
	〈Che lingua! Manco male ch'ognun sa quanto vale.〉	〈なんて話しぶり！ まあいいわ、誰もがどれほど価値がある か知っているわ。〉
	〈Meglio è partir.〉	〈出て行った方がいいわね。〉
	<i>(facendo una riverenza)</i> <u>Non sono sì ardita, madama piccante:</u>	<i>(お辞儀しながら)</i> <u>私は厚かましくないわ、辛らつな奥様、</u>
	<i>(riverenza)</i> No, no, tocca a lei:	<i>(お辞儀しながら)</i> いいえ、いいえ、あなたが先に、
	<i>(riverenze)</i> Io so i dover miei, non fo inciviltà. (&M)	<i>(お辞儀しながら)</i> 私は自分の義務を知っていてよ、無作法 なことはしません。
	La dama d'onore!	評判の貴婦人！
	Di Spagna l'amore!	スペインの恋人！
	L'abito!	そのドレス！
	L'età!	年齢！
	<i>(minchionandola)</i> <u>Sibilla decrepita, da rider mi fa.</u>	<i>(彼女をからかって)</i> <u>年老いた巫女、私を笑わせるわ。</u>
	第 5 景	
	<u>Va' là, vecchia pedante, dottoressa arrogante, perché hai letti due libri e seccata madama in gioventù...</u>	<u>あっちへ行って、小うるさいばあさん、 尊大な学者、少し本を読んだからといっ て若い頃は奥様を悩ませたりして…</u>
	Son io, cosa volete?	私よ、何かあったの？
	Cor vostro! Cosa avvenne?	あなたの心ですって！何があったの よ？
	Non vedete più me! Bravo! Ma dunque non più per la Contessa secretamente il vostro cor sospira?	もう私に会えないですって！いいわ！ でもつまりあなたの心はもう伯爵夫人 には密かに恋焦がれていないの？
	Ah il vago nastro, della notturna cuffia di comare sì bella.	ああ優雅なリボン、本当に美しい名付け 親の夜のボンネットよ。
	Presto quel nastro!	早くそのリボンを！
	Cos'è quest' insolenza?	この無礼は何なの？

第 6 景	E che ne debbo fare?	そしてそれをどうすればいいの？
	Povero Cherubin, siete voi pazzo!	哀れなケルビーノ、あなたは狂っているわ！
	<i>(Cerca mascherar Cherubino.)</i>	<i>(ケルビーノを隠そうとする。)</i>
	Che timor! Il Conte! Misera me!	何て不安！伯爵よ！惨めだわ！
	Signor... io chiedo scusa...ma...se mai... qui sorpresa...per carità! Partite.	旦那様…私を許してください…でも…もし…ここで驚いたら…どうか！ 出て行ってください。
	Non odo nulla.	何も聞きません。
	Signor, se osassi...	旦那様、思いきって…
	Lasciatemi signor; dritti non prendo, non ne vo', non ne intendo... oh me infelice!	私を放して下さい、旦那様、権利は受け取りません、欲しくないし、分かりません…ああ不幸なこと！
	Oh Dei!	ああどうしよう！
	Ch'io vi lasci qui solo?	ここにあなただけを残して？
	Non vi celate.	隠れないで下さい。
	Oimè! Che fate?	ああ！何をするのですか？
	E cosa deve far meco il Conte? Animo, uscite.	伯爵が私と何をしなければいけないの？早く出て行って下さい。
	〈Oh cielo!〉 Ei cerca chi dopo voi più l'odia.	〈ああ何ていうこと！〉 彼があなたの次に彼を憎んでいる人を探している。
	Sortite, vil ministro dell'altrui sfrenatezza: io non ho d'uopo della vostra morale, del Conte, del suo amor ...	出て行って下さい、他人の無茶の卑怯な使者、私にはあなたのモラルや、伯爵、彼の愛も必要ではありません…
	<i>(con ansietà)</i> A Cherubino!	<i>(心配して)</i> ケルビーノよりも！
	<i>(con forza)</i> Uom maligno, un'imposture è questa.	<i>(強く)</i> 意地悪な男ね、それは嘘よ。
	<i>(Mostra dello smarrimento, da sè.)</i> 〈Chi diavol gliel'ha detto?〉	<i>(狼狽の様子を見せる。)</i> 〈一体誰が彼に話したのかしら。〉
	Scellerato! E perché andate voi tai menzogne spargendo?	悪党！なぜあなたはそんな偽りを撒き散らして歩くのですか？
	Oh cielo!	ああ大変！

		Che ruina, me meschina! Son oppressa dal dolor.	何という破滅、かわいそうな私！ 苦しみに押しつぶされる。
		Dove sono? Cosa veggio? Che insolenza, andate fuor.	私はどこ？どうしたのかしら。 何て無礼な、外に出て下さい。
		È un'insidia, una perfidia, non credete all'impostor.	罠よ、裏切りよ、ペテン師を信じないで 下さい。
		Poverino!(&D.B.)	かわいそうに！
		Come! Che!	なんと！どういうこと！
		(con timore) Ah! Crude stelle!	(不安げに) ああ！なんてむごい！
		Accader non può di peggio, giusti Dei! Che mai sarà!	これより悪くなることはあり得ない、正 義の神よ！一体どうなるの！
		(con vivezza) Ed io che senta: andate.	(活発に) 私は聞いてくれるように、行きなさい。
		Non ha d'uopo di scusa un'innocente.	潔白な人間には言い訳する必要はあり ません。
		Egli era meco quando voi qui giungete, e mi chiedea d'impegnar la padrona a intercedergli grazia: il vostro arrivo in scompiglio lo pose, ed allor in quel loco si nascose.	あなたがここに來た時彼は私と一緒に いました、奥様が仲介して恩赦をいただ けるように私に頼んでいたのです、そこ にあなたの到着が彼を大騒ぎさせ、それ である場所へ隠れたのです。
	第 8 景	〈Non ci ho speranza.〉	〈希望はないわよ。〉
		(malignamente) Che virtù!	(意地悪く) 何という徳なの！
		Evviva!	万歳！
		È afflitto poveretto! Perché il padron lo scaccia dal castello!	かわいそうに悲嘆にくれて！ 旦那様が城から追い出すからなのね！
		In un giorno di nozze!	結婚式の日！
		Egli è ancora fanciullo!	彼はまだ子供です！
		Ah fin domani sol...(&Fig.)	ああせめて明日まで…
第 2 幕	第 1 景	È già finita.	すでに終わっています。
		Oh il signor conte non fa tai complimenti colle donne mie pari; egli venne a contratto di danari.	まあ、伯爵様は私のような女にそのよう なお世辞は言いません、彼はお金で契約 したのです。

第 2 景	E come poi è geloso di voi?	ではなぜあなたにやきもちを焼くのでしょうか？
	Eccolo: vieni, amico. Madama impaziente ...	彼です、来て、あなた。 奥様がいらいらして…
	Natural!	当然！
	Finiscila una volta.	ちょっとやめて。
	Ed hai coraggio di trattar scherzando un negozio sì serio?	あなたは重要な用件をふざけて扱う勇 気があるの。
	È ver, ma in di lui vece s'opporrà Marcellina.	そうね、でも旦那様の代わりにマルチェ ッリーナが妨害するわよ。
	Non c'è mal.	悪くはないです。
	Quand'egli è persuaso ... e dove è il tempo?	彼は確信していますから…時間はどう するの？
	Eccola: appunto facciam che ce la canti: zitto: vien gente: è desso. Avanti avanti: signor ufficiale.	ここに、ちょうど彼にそれを歌わせまし ょう、静かに、人が来ます、彼ですよ。 さあ来なさい、士官様。
	E tanto bella!	そしてとても美しい！
	Ah sì ... certo ...ipocritone!	ああそうよ…もちろん…猫をかぶっ て！
	Via presto la canzone che stamane a me deste a madama cantate.	さあ早く奥様に、今朝私にくれた歌を歌 いなさい。
	Guardate: egli ha due braccia di rossor sulla faccia.	見て下さい、彼は顔をわずかに赤くしま したよ。
	Lo vuole, sì, lo vuol. Manco parole.	それを望んでいますよ、ええ、そう望ん でいます。もう何も言わないで。
	Oh in verità egli fa tutto ben quello ch'ei fa. Presto a noi bel soldato: Figaro v'informò ...	まあ実に、彼はやること全て立派にす る。 早く私達の元へ、きれいな兵隊さん、フ ィガロがあなたに伝えたでしょう…
	Lasciatemi veder: andrà benissimo: siam d'uguale statura... giù quel manto.	私に見させて、非常に良くはかどるわ、 私達は同じ位の身長だし…そのマント を外して。
	Niente paura.	何も怖いことはないわ。

Entri, che mal facciamo?	入ればいいわ、何か悪いことをしたかしら。
La porta chiuderò.	戸を閉めます。
Ma come poi acconciargli i capelli?	でもどのように髪を結いましょうか。
Il sigillo di che?	何の印ですか？
Cospetto! Che prenura!	おや！何て配慮！
Ecco la cuffia.	はい、帽子よ。
<i>(Prende Cherubino e se lo fa inginocchiare davanti poco discosto dalla Contessa che siede.)</i>	<i>(ケルビーノを捕まえ、座っている伯爵夫人から少し離れて前に跪かせる。)</i>
Venite inginocchiatevi: restate fermi lì.	来なさい、ひざまずいて、そこにじっとしていなさい。
<i>(Lo pettina da un lato, poi lo prende pel mento e lo volge a suo piacere.)</i>	<i>(片側の髪からすいて、その次にあごを掴んで好きなように向ける。)</i>
Pian piano or via giratevi: bravo, va ben così.	そっとさあこちらに向けて、いいわ、これでいいわ。
<i>(Cherubino mentre Susanna lo sta acconciando guarda la Contessa teneramente.)</i>	<i>(スザンナが整えている間にケルビーノは伯爵夫人を愛を込めて見つめる。)</i>
La faccia ora volgetemi: olà quegli occhi a me.	今すぐに顔をこっちに向けて、こら、その目を私に。
<i>(Seguita ad acconciarlo ed a porgli la cuffia.)</i>	<i>(彼を整え続けて、帽子を差し出す。)</i>
Drittissimo: guardatemi.	まっすぐに、私を見なさい。
Madama qui non è.	私は奥様ではないのよ。
Più alto quel colletto...quel ciglio un po' più basso...le mani sotto il petto...vedremo poscia il passo quando sarete in piè.	そのえりをもっと高く…その目は少し低く、手は胸の下に…それから立ってから歩き方を見てみましょう。
<i>(piano alla Contessa)</i>	<i>(伯爵夫人にそっと)</i>
Mirate il bricconcello!	いたすら坊主を見て下さい！
Mirate quanto è bello!	どんなにかわいいか見て下さい！
Che furba guardatura!	何てずる賢そうな目つき！
Che vezzo, che figura!	なんて愛らしく、なんて姿！
Se l'amano le femmine han certo il lor perché.	女達が愛しても確かに理由があるわ。

		Ma se ne sono io medesima gelosa; ehi serpentello, volete tralasciar d'esser sì bello?	でもたとえ私でも嫉妬するほどです、ちょっと小さい蛇さん、あなたがこんなにかわいいことを無視するつもりなの？
		Ecco.	はい、そうですね。
		È quel ch'esso involommi.	それは彼が私から取ったのです。
		Mostrate: non c'è mal: cospetto! Ha il braccio più candido del mio! Qualche ragazza...	見せて、そう悪くないわ、まあ！ 腕は私のより白いわ！ どこかの女の子が...
		Tenete, e da legargli il braccio?	どうぞ、彼の腕に縛るのですか。
第 3 景		Cos'è codesta lite!	その口論は何！
		Il paggio dove andò!	小姓はどこにいったの！
		Capisco qualche cosa, veggiame come va.	いくらか事が分かったわ、どう進行していくか見てみましょう。
第 4 景		Oh cielo un precipizio, un scandalo un disordine, qui certo nascerà.	あらまあ、破滅が、不祥事が、混乱がここに確かに起きるわ。
		Aprite, presto, aprite; aprite è la Susanna: sortite, via sortite, andate via di qua.	開けて、早く、開けてちょうだい、スザンナよ、出てきて、さあ出てきなさい、ここからあっちに行きなさい。
		Partite, non tardare di qua, di qua, di là.	出て行って、ここから遅れないで、ここから、あっちへ。
		Le porte son serrate, che mai sarà! (&Che.)	ドアが閉まっている、一体どうなるのだろう！
		V'uccide se vi trova.	もしあなたを見つけたら殺すわよ。
		Fermate, Cherubino! Fermate, per carità!	やめなさい、ケルビーノ！ やめなさい、お願いよ！
		Tropp'alto per un salto, fermate per carità.	跳ぶには高すぎるわよ、どうかやめて！
		Ei va a perire oh Dei! Fermate per pietà. Oh guarda il demonietto! Come fugge! È già un meglio lontano. <u>Ma non perdiamci invano: entriam in gabinetto: venga poi lo smargiasso, io qui l'aspetto.</u>	彼が死んでしまうわ、ああ！ どうかやめてちょうだい。 あああの小悪魔を見て！ なんて逃げ足の速い！ すでにあんなに遠くにいる。 <u>でも時間を無駄にはできない、化粧室に入りましょう、ほら吹きさん来なさい、私はここで待っているわよ。</u>

第 7 景	Signore, cos'è quel stupore? (con ironia)	旦那様、その驚きは何ですか。 (皮肉を込めて)
	Il brando prendete, il paggio uccidete, quel paggio malnato, vedetelo qua.	剣を持ち、小姓を殺して下さい、あの粗 野な小姓を、ここで見つけて下さい。
	〈Confusa han la testa non san come va.〉	〈頭が困惑してどうなっているのか分 からないのね。〉
	Guardate: qui ascoso sarà.	見て下さい、ここに隠れているでしょ う。
第 8 景	<u>(Allegriissima addita alla Contessa la finestra onde è saltato Cherubino.)</u>	<u>(ケルビーノが飛び跳ねた窓を伯爵夫人に陽 気に示す。)</u>
	Più lieta più franca in salvo è di già.	もっと楽しくもっとのびのびと彼はも う無事ですよ。
	Le vostre follie non mertan pietà. (&La C.)	あなたの狂気は同情に値しません。
	Così si condanna chi può sospettar.	疑う人はこのように有罪となるのです。
	Signora.	奥様。
	Confuso, pentito, è troppo punito abbiate pietà.(&Il C.)	混乱し、後悔し、旦那様は十分に罰せら れ、同情して下さい。
	Di Figaro è il foglio e a voi per Basilio.(&La C.)	その紙はフィガロの物で、バジーリオか らあなたに。
	Perdono non merta chi gli altri nol dà.(&La C.)	他人に許しを与えない人には許される に値しません。
	Cogl'uomin signora, girate, volgete, vedrete che ognora si cade poi là.	奥様、男性とのことは回転し、向きを変 えたりするけれど、結局いつもそこに終 わるものと分かります。
	Da questo momento quest'alma a conoscervi la apprender potrà.(&Il C.,La C.)	この時からその心は奥様を知り理解で きるようになるでしょう。
	La cosa è scabrosa; com'ha da finir! (&La C., Fig.)	事はきわどい、どのような結末を迎える のか！
	Nol conosci?(&La C, Il C.)	知らないの？
	E nol desti a Don Basilio...	それをドン・バジーリオにやらなかった かしら...
	E non sai del damerino...	色男のことを知らない...

		Il talento aguzzi invano palesato abbiam l'arcano: non v'è nulla da ridir.(&La C.)	謎を明らかにしたから才能を研ぎ澄ま しても無駄よ、何も言うことはないわ。
		Eh via chetati balordo, la burletta ha da finir.(&La C.)	さあばかね、落ち着いて、茶番劇は終わ ったのよ。
		Deh signor nol contrastate consolate i miei desir.(&La C., Fig.)	ああ旦那様は反対せず、私の願いをかな えてください。
	第 10 景	Cosa dici, cos'hai, cosa è nato? (&La C.,Fig.,Il C.)	何を言っているの、どうしたの、何があ ったの？
		Via parla di' su. (&La C.,Fig.,Il C.)	さあ言いなさい。
		Figaro all'erta.(&La C.)	フィガロ用心して。
		Costui ci sconcerta. Quel briaco che viene a far qui? (&La C.,Fig.)	この男は当惑させる。 その酔っ払いは何をしにここに来る の？
		Sai che il paggio...	小姓だと分かるでしょ…
		Ma signore, se in lui parla il vino! (&La C.,Fig.)	でも旦那様、もし彼の中のワインが話し ているなら！
		Olà Figaro ascolta!	ねえフィガロ聞いて！
		Che testa! Che ingegno!(&La C.)	なんて知恵！なんて策略！
		Ed insiste quel pazzo!(&La C.)	あの変人はしつこい！
		Maledetto!(&La C.)	いまいましい！
		Come mai, giusto ciel! Finirà?(&La C.)	一体どうして、おお神よ！ 終わるの？
		Figaro all'erta.(&La C.)	フィガロ用心して。
		Lascialo: e parti...(&La C., Fig.)	彼にさせて、出て行きなさい…
		Giusti Dei la patente!...	まあ辞令よ！…
		Il suggello.	印よ。
		〈Se mi salvo da questa tempesta più non avvi naufragio per me.〉 (&La C.)	〈もしこの嵐から逃げられればもう私 には失敗はない。〉
	第 11 景	〈Son venuti a sconcertarmi qual rimedio ritrovar?〉 (&La C.,Fig.)	〈混乱を招きにやって来たけどその対 策は見つけられるかしら。〉
		Come! Come! (&La C.,Fig.)	なんと！なんと！
		É un birbante!... (&La C.,Fig.)	彼はならず者です！…
		Son tre matti. (&La C.,Fig.)	三人は気が狂っているのです。

		Son confusa son stordita disperata sbalordita. Certo, un diavol dell'inferno qui li ha fatti capitar. (&La C.,Fig.)	戸惑い、仰天し、絶望し、嘔然としてしまう。 確かに、地獄の悪魔がここで彼らと出会わせた。
第 3 幕	第 2 景	Oh cielo! E Figaro?	ああ！それでフィガロは？
		Oh Dio... non oso!	ああ大変…できません！
		〈Marcellina!〉 Signor...	〈マルチェッリーナね！〉 旦那様…
		Mi par che siete in collera!	怒っているように見えますけど！
		Signor... la vostra sposa ha i soliti vapori, e vi chiedi il fiaschetto degli odori.	旦那様…奥様がいつもの気の病で、旦那様に香料の小瓶を頼んでいます。
		Or vel riporto.	すぐにお返ししますので。
		Per me? Questi non sono mali da donne triviali.	私に？ これは俗っぽい女がかかる病気ではありません。
		Pagando Marcellina, colla dote che voi mi promettevate...	マルチェッリーナに支払ったら、あなたが私に約束した持参金によって…
		Credea d'averlo inteso.	そう了解したと思っていました。
		È mio dovere: e quel di Sua Eccellenza è il mio volere.	それは私の義務です、殿下の意志は私の意志でございます。
		Signor, la donna ognora tempo ha di dir di sì.	旦那様、女は常に「はい」と言う時があるのです。
		Se piace a voi, verrò.	もしあなたのお気に召すなら、行きます。
		No non vi mancherò.	いいえ約束を破りはしません。
		No!	破りません！
		<u>Scusatemi se mento, voi che intendete amor.</u>	<u>たとえ騙しても許してください、恋愛を知っている人たち。</u>
		No!	いいえ！
		Si. Se piace a voi, verrò.	はい。もしお気に召すなら、行きます。
		Si!	はい！
		No non vi mancherò.	いいえ約束は破りません。
		<u>Scusatemi se mento, voi che intendete amor.</u>	<u>たとえ騙しても許してください、恋愛を知っている人たち。</u>
		Col paggio ch'ivi c'era...	同じ所にいた小姓に…

第 3 景	Ma qual bisogno abbiain noi, che un Basilio...	でも私達にどんな必要があるのでしょうか、バジーリオに...
	Eh fu un pretesto: parlato io non avrei senza di questo.	もちろん口実です、私はこうしなければあなたに話せませんでした。
	Vien gente.	人が来ます。
	Forbitevi la bocca, oh signor scaltro.	口を慎んで下さい、ああ達者な旦那様。
	<u>Taci: senza avvocato hai già vinta la causa.</u>	<u>黙って、弁護士なしですすでに訴訟に勝ったわよ。</u>
	Alto alto, signor Conte, mille doppie son qui pronte, a pagar vengo per Figaro, ed a porlo in libertà.	止まって、待ってください、伯爵様、ここに二千の金貨があります、フィガロのために払いに来ました、彼を自由にするために。
	Già d'accordo ei colla sposa; giusti Dei, che infedeltà! Lascia iniquo!	すでに彼は花嫁と同意したのね、ああ、なんて不貞なのよ！ 放っておいて、邪悪な人！
	<u>Senti questa!</u> <i>(Dà uno schiaffo a Figaro.)</i>	<u>これを聞いて！</u> <i>(フィガロに平手打ちをする。)</i>
	<u>Fremo, smanio dal furore, una vecchia a me la fa.</u>	<u>激情で震え、苛立つわ、あのおばあさんに私がしてやられるなんて。</u>
	Sua madre?	彼の母親？
	Tua madre?	あなたの母親？
	Suo padre?	彼の父親？
	Tuo padre?	あなたの父親？
	Al dolce contento di questo momento, quest'anima appena resistere or sa. (&M.,Bartolo,Fig.)	この時の甘美な喜びに、この心はやっと今持ちこたえている。
	Prendi ancor questa borsa.	このお金も受け取って下さい。
第 6 景	Voliamo ad informar d'ogni avventura madama e nostro zio. Chi al par di me contenta!	奥様と私達のおじさんにあらゆる情事を伝えに行きましょう。 私と同じ位満足なのは誰かしら！
	E schiatti il signor Conte al gusto mio.(tutti)	それで伯爵様が私の楽しみにかんかんに怒るわ。
	Gli si leggeva in fronte il dispetto e la rabbia.	額に苛立ちと怒りが分かりました。
第 10		

	景	In giardino.	庭です。
		Ch'io scriva...ma...signora...	私が書く…でも…奥様…
		Sull'aria...	そよ風によせて…
		zeffiretto...	そよ風が…
		questa sera spirerà...	今宵吹くでしょう…
		sotto i pini...sotto i pini...del boschetto...	松の下に…松の下に…森の中の…
		Certo, certo il capirà.	もちろん、もちろんお分かりになるでしょう。
		Piegato è il foglio... or come si sigilla?	手紙は折って…そしてどのように封をしましょうか？
		È più bizzarro di quel della patente.	辞令のものより風変わりですね。
	第 11 景	Come sono vezzose.	なんてかわいらしいのでしょう。
		Al naturale.	そのまま写したようです。
	第 12 景	〈Malandrino!〉	〈油断ならない男!〉
	第 13 景	Lasciate fare a lui.	彼に任せて下さい。
		Eccolo.	どうぞ。
第 4 幕	第 9 景	Signora, ella mi disse che Figaro verravvi.	奥様、彼女が私にフィガロが来ると言いました。
		Dunque un ci ascolta: e l'altro dee venir a cercarmi, incominciam.	つまり一人は私達を待つ、そして他の人は私を探しに来ることになっているのね、始めましょう。
	第 10 景	Madama voi tremate: avreste freddo?	奥様は震えていますね、寒いのですか？
		Io sotto queste piante, se madama il permette, resto a prendere il fresco una mezz'ora.	私はこの木の下に、もし奥様が許すなら、三十分涼みに残ります。
		(sotto voce)	(小声で)
		<u>Il birbo è in sentinella: divertiamoci anche noi: diamogli la mercè de' dubbi suoi.</u>	<u>ならず者は見張りをしている、私達もまた楽しみましょう、彼の疑いによる報いを与えてやりましょう。</u>

	<p>Giunse alfin il momento che godrò senza affanno in braccio all'idol mio.</p> <p>Timide cure, uscite dal mio petto, a turbar non venite il mio diletto!</p> <p>Oh come par che all'amoroso foco l'amenità del loco, la terra e il ciel risponda, come la notte i furti miei seconda!</p> <p>Deh vieni non tardar, o gioia bella, vieni ove amore per goder t'appella, finchè non splende in ciel notturna face, finchè l'aria è ancor bruna e il mondo tace.</p> <p>Qui mormora il ruscel, qui scherza l'aura, che col dolce sussurro il cor ristaura, qui ridono i fioretti e l'erba è fresca, ai piaceri d'amor qui tutto adesca.</p> <p>Vieni ben mio, tra queste piante ascese, ti vo'la fronte incoronar di rose.</p>	<p>とうとうこの時が来た、不安もなく心か ら喜べる時が、私の憧れの人の腕の中 で。</p> <p>弱気な心よ、私の胸から出て行ってちょ うだい、私の喜びを邪魔しに来ないで！ ああ、恋の炎に大地と空の楽しさが答 えているようよ、なんと夜が私の企みを助 けてくれることかしら！</p> <p>さあ遅れずに来て、ああ素敵な愛する人 よ、来て、楽しみのために愛があなたを 呼ぶところへ、空に夜の松明がともらな い（月がのぼらない）内に、まだ空が薄 暗く、世界が黙っている間に。</p> <p>ここでは小川がつぶやき、そよ風がはし やぐ、これらの優しいささやきが心を癒 す、ここでは花がお返しに咲き、そして 草木は瑞々しい、恋の喜びがここにすべ てをおびき寄せる。</p> <p>来て私の恋しい人、この茂みの中へ、あ なたにバラの冠をかけてあげたいの。</p>
第 12 景	Ecco qui l'uccellatore. (&Fig.)	さあここに鳥刺しが来た。
	Ah nel sen mi batte il core!	ああ胸の中で心臓が波打つ！
	Un altr'uom con lei si sta.(&Il C.,Fig.)	他の男が彼女という。
	Alla voce è quegli il paggio. (&Il C.,Fig.)	あの声は小姓。
	〈Temerario!〉(&Il C.,La C.,Fig.)	〈厚かましい！〉
	〈Se il ribaldo ancor sta saldo la faccenda guasterà.〉 (&Il C.,La C.,Fig.)	〈もし悪党がもっと頑固にしていれば、 仕事はぶち壊しだ。〉
	(Ride.) Ah ci ha fatto un bel guadagno colla sua curiosità!	(笑って。) ああ彼は好奇心のせいで立派な報酬を 得たわ！

	La sieca prevenzione delude la ragione inganna i sensi ognor. (&La C.,Fig.)	盲目的な先入観は理性を背き、いつも感覚を欺く。
	Va tutto a meraviglia, ma il meglio manca ancor.(&Il C.,Fig.)	全て完璧にうまくいっている、しかしまだベストには足りない。
	Mariti scimuniti venite ad imparar! (&Fig.)	馬鹿な夫が思い知るために来る！
	I furbi sono in trappola, comincia ben l'affar.(&La C.)	<u>抜け目ない人は罠にかかった、仕事がい</u> <u>まぐ始まった。</u>
第 13 景	<i>(cangiando la voce)</i> Ehi Figaro: tacete. <i>(Si dimentica di alterare la voce.)</i>	<i>(声を変えて)</i> ちょっとフィガロ、黙って。 <i>(声を変え忘れる。)</i>
	Parlate un po' più basso, di qua non muovo il passo, ma vendicar mi vò.	少し低く話さない、ここから一歩も動かないわ、でも敵を討ちたいのよ。
	Sì.	ええ。
	〈L'iniquo io vo' sorprendere, poi so quel che farò.〉	〈私は非道な人を騙したいのよ、次はどうするかも知っている。〉
	Su via, manco parole.	さあ、話すのはやめなさい。
	〈 Come la man mi pizzica, che smania, che furor!〉	<u>〈なんて手がむずむずするのかしら、な</u> <u>んて動揺、なんて怒り！〉</u>
	<i>(alterando un poco la voce)</i> E senz'alcun affetto?	<i>(少し声を変える)</i> ではいくらかの愛情もないのに？
	<i>(in voce naturale, gli dà uno schiaffo)</i> Servitevi, signor.	<u><i>(声を元に戻し、平手打ちを彼にする)</i></u> <u>これを受け取って、旦那様。</u>
	<i>(ancor uno)</i> Che schiaffo, <i>(lo schiaffeggia a tempo)</i> e questo, e ancora questo, e questo, e poi quest'altro.	<u><i>(もう一度)</i></u> <u>なんて平手打ち、ですって、</u> <u><i>(遅れずに平手打ちをする)</i></u> <u>これを、またこれも、これも、その次に</u> <u>これも。</u>
	<i>(sempre schiaffeggiandolo)</i> E questo, signor scaltro, e qui quest'altro ancor.	<u><i>(常に平手打ちをしながら)</i></u> <u>これを、抜け目ない旦那様、ここにもう</u> <u>一度。</u>
	Impara impara, oh perfida, a fare il seduttur.	覚えておいて、覚えておきなさい、ああ裏切り者、女たらしにすることを。
	第 La mia voce?	私の声を？

14 景	Pace pace, mio dolce tesoro, pace pace, mio tenero amor.(&Fig.)	仲直りよ、私の甘美な宝よ、仲直りよ、 私の優しい愛よ。
	Questi è il Conte, alla voce il conosco. (&Fig.)	これは伯爵よ、声で分かる。
	Bella bella! Non l'ha conosciuta.	すごいすごいわ！ 彼女だと分からなかったわ。
	Madama.	奥様よ。
	Madama!	奥様よ！
	La commedia, idol mio, terminiamo, consoliamo il bizzarro amator! (&Fig.)	喜劇は、私の憧れの人よ、終わらせましょ う、怒りっぽい女たらしを慰めましょ う！
	Io son qui, faccio quel che volete.	私はここにいます、してほしいことをし ましょう。
	Ah corriamo, mio bene, e le pene compensi il piacer.	ああ走りましょう、私の恋人、苦しみを 喜びであがなうのです。
	Perdono! Perdono!	許してください！許してください！
	Perdono! Perdono!(tutti)	許してください！許してください！
	Perdono! Perdono!(tutti)	許してください！許してください！
	Ah tutti contenti saremo così. Questo giorno di tormenti, di capricci, e di follia, in contenti e in allegria solo amor può terminar. Sposi, amici, al ballo, al gioco, alle mine date foco! Ed al suon di lieta marcia corriam tutti a festeggiar!.(tutti)	ああこうしてみんなが満足する。 苦しみの、気まぐれで、狂気のこの日、 満足と喜びの中で愛だけが終わらせら れる。 新郎新婦、友人、ダンスに、娯楽に、突 破口に火をつけて！ 楽しいマーチにのって、みんなで祝いに 駆けつけよう！
最 終 景		

### 第三章 結論

四人のスブレット役の人物像を登場人物とスブレット自身の台詞からそれぞれ考察してみると、四人の性質には多少異なる点はあるものの、似た要素を持っていることが分かる。

ウベルトはセルピーナに対して、愛着と蔑視を持って複雑な心境で接している。彼女の女中という身分からは、遠慮されなければいけないような言動を憚ることなく行い、そのことに主人が苛立ちを募らせても、動じることなく自分の意見を貫く冷静さと機敏さがある。娘のように育ててきた自分の責任だ、と主人に後悔させる程の図々しさと無礼さを持ち、しかし憎みきれないかわいらしさをも持った女性でもある。ツェルリーナも、低い身分でありながらドン・ジョヴァンニに見初められる。その無防備さに恋人は激怒しながらも、結局惚れた弱みなのか彼女の魅惑的な態度によって許してしまう。デスピーナ、スザンナもまた愛らしく美しい女性として描かれ、彼女達四人の魅力に男達は惚れ込み、また悩みの種にもなるのである。セルピーナは「かわいい小鳩」と表現される他、デスピーナも「美しいデスピーナ」などと賞賛され、また両者共自らの美しさや魅力を自覚している。特にツェルリーナとスザンナに関しては、彼女達の外見や雰囲気に関する具体的な台詞や表現がある。それによると、ツェルリーナは「砂糖をかけたような」甘い顔をして、「いたずらっぽい目」と「小さな指」を持ったかわいらしい女性であり、スザンナは「しとやか」で「やさしそうな雰囲気」を持ち、「慎ましい目」をした品のある女性であることが分かる。

セルピーナは自分の美しさを確認めるようにウベルトを追及し、デスピーナは自分の美しさと巧みな手練手管で「千人の男を手玉に取ってきた」と自信を見せる。またツェルリー

ナは、媚びたり、自分の胸に触らせたりして大胆になまめかしくマゼットをそそのかす。

彼女達は堂々と自分達が女であることを利用し、男達を操ろうとする。一方スザンナの場合は、伯爵の台詞やスザンナに対する態度は、ツェルリーナをそそのかすドン・ジョヴァンニのそれに似ているが、ツェルリーナのようになびくことはない。両者共恋人がいる身で、自分よりも身分が高い人物によって誘惑されるという設定は同じであり、またそのことについて恋人達が動揺したり怒ったりもするが、その危機を乗り越えて結ばれるという展開もほとんど同じと言える。しかし、スザンナは美しい容姿を持ちながら、他の三人のようにそれを利用することはなく、誘惑されても毅然とした態度で対応しようとする。

四人に共通するのは美しさだけではなく、性質の上でもいくつか相似した要素がある。四人以外の登場人物の台詞の中では、頻繁に彼女達の「抜け目なさ」や「狡猾さ」を指摘する表現や、直接その意味を示す語が使われ、また身分の低さを強調したり蔑んだりする表現も見られる。《奥様女中》に関しては、登場人物が限られているのにもかかわらず、セルピーナを非難、罵倒するのに様々な種類の単語を用いられている。セルピーナは奔放で常識から外れた発言を繰り返し、ウベルトを苛立たせた後、哀れな身の上を強調し同情を誘い、そのしおらしい態度にすっかり騙されたウベルトはセルピーナの策略どおりに心配し、明確に愛情を持ち始める。ツェルリーナについては、明確に「狡猾」という言葉は使われていないが、三人の男性によって態度を使い分ける器用さや、自分の過失を色気を使って言葉巧みにごまかす抜け目なさがはっきりと表れている。しかしツェルリーナの最も特徴的な性質の一つは、他の三人には見られない残忍性と粗野な言動である。スザンナにも、フィガロに対する気性の荒さや、狡猾さがある反面、他人を騙すことへの抵抗もあり、

しかも自分だけの利益のためではなく、主人への忠義を尽くすという目的から知恵を働かせた結果現れた性質であり、ツェルリーナのサディスティックさとは少し異なる。前述したように、スザンナは自分が使える伯爵夫人に対して忠誠を抱き、親しみも持っている。夫人もスザンナを信頼し、特に引き立てている様子が窺えることから、二人は良好な関係を保っていると言える。しかし、デスピーナの場合は主人である姉妹との間に信頼関係が成り立っているとは到底言えない。姉妹はデスピーナを変わり者として馬鹿にし、反対にデスピーナは姉妹に対して優越感を持ち、内心では蔑み陥れようとする。デスピーナはスザンナとは全く違って、主人のためではなく自分の得のためだけに悪知恵を働かせ、自分の抜け目なさを悪びれることなく誇りに思う陽気な人物である。奇抜な考えを持ち、それによって周囲の人々を振り回す様子は、セルピーナの自由奔放さと似ているのではないだろうか。スザンナは、セルピーナやデスピーナに比べると、一般的な考えを持った人物と言える。彼女の利発さと堅実な性格は、伯爵夫人だけではなくその他の人からも頼りにされ、慕われている。フィガロも、初めは敵対するマルチェッリーナでさえも、彼女の上品さや純真さから、罪を犯すような人物には見えないと信じる発言をしている。また、《フィガロの結婚》においては、登場人物やスザンナ自身の台詞で彼女の性質を表す表現や言葉が、全体の台詞の量からすると少ないことから、周囲の人物から指摘されたり非難されるほど極端に特異な、酷い性質ではなく、安定感を持った人物なのである。

コンメディア・デッラルテの小間使い役について、ミック（1987、p.53）は以下のよう

に述べている。

「コメディア・デラルテにおける小間使いの役柄は際立って目立ち、少々粗野でさえあった。彼女は頑丈で抜け目のない百姓女であり、『ちゃきちゃきしていて悪賢く、猛烈なお喋りで、自由奔放である』と P.J.マルテッリはその性質を評した。」（梁木訳）

この性質に四人の中でツェルリーナが最もよく当てはまる。またセルピーナもデスピーナも、抜け目のなさや悪賢さ、自由奔放さを持った人物であることは考察した通りであり、彼女達がコメディア・デラルテの小間使い役の性質を受け継いでいることが分かる。しかし、スザンナだけは上述した小間使い役の雰囲気や性質から逸脱し、小間使いという身分でありながら品格を備えた女性のように感じる。このことは、ミック（1987）が述べるフランスの小間使い役の性質が、イタリアでのコンメディア・デラルテの小間使い役より洗練されたことに関係している。また、ミック（1987）と共にニコル（1898）もまた、パリで 1683 年にデビューした一人の女優、カトリーヌ・ビアンコレッリの活躍が、小間使い役の「より繊細で、より優雅」というスタイルを強めたことを指摘している。《フィガロの結婚》の原作を書いたボーマルシェは、スザンナ（シュザンヌ）を「若くて、身のこなしが軽く、利発で冗談がうまい。だがその陽気さは、いまだきの下品で程度の悪い女召使役の厚かましいほどの陽気さではない。」（石井宏訳、1998、p.12）との性格設定をし、加えて戯曲の序文には、「この役のどこを取っても、ほとんど戯曲全体にわたって、彼女が仕事に対して忠実で、賢明な女であることを疑わせるような言葉は、ただの一語も見当たらないからである。劇中、彼女は一つだけあえて嘘の計略に加担するのだが、それは彼女の女主人のためである。」（石井訳、1998、p.13）と説明している。

セルピーナを除いた三人は、オペラの中では脇役である。しかし、その働きは主役に匹敵するか、それ以上の活躍をする。スザンナにおいては、登場人物の中で最も舞台上に登場し、それに伴って台詞も多く、前半はほとんど休む暇なく何かしら話して活動している。ツェルリーナはただの身分の低い農民の娘だったのに、ドン・ジョヴァンニに誘惑されることで他の登場人物達にも注目され、協力し合いながら復讐に積極的に関わっていく。《コジ・ファン・トゥッテ》で、恋人達を意のままに操って混乱させたのは、計画を立てたドン・アルフォンソではなく、小間使いのデスピーナだった。最初から最後までみんなが彼女のペースに乗せられ、二度の巧妙な変装に誰も気付かず騙されてしまう。『モーツァルト二つの顔』の中で、著者の礪山雅は演奏会形式の《コジ・ファン・トゥッテ》の上演の際、魅力的なデスピーナの演技を見て、「デスピーナが優秀だとこのオペラがどれほど精彩を帯びてくるかを、実感せざるをえなかった」（2000、p.139）と述べており、また、有名で才能のある外国人歌手によりデスピーナが歌われることにも言及し、「デスピーナ重視は、最近の世界的な流れ」（2000、p.140）という見解を示している。彼女達は脇役でありながら、しっかりと自分の見せ場を持ち、物語の重要な鍵を握っていることもしばしばある。スザンナは確かに他の三人とは異なる、控えめで利口な人物である。しかし彼女達は皆知恵を利用して、時にはずる賢くそれを働かせ、目的を達成させることができる人物だ。また、狡猾さや計算高さなど、彼女達の腹黒い面を垣間見ても、私達観客は嫌悪感を覚えるどころか、どうなっていくのだろうという期待感や興味を持ってしまう。スプレットの魅力は、若々しく快活で、小生意気で、時々見せる艶っぽい表情や、怒ったり笑ったりせわしく変わる態度によって、またあらゆる手を使って、登場人物だけでなく観客までもを翻弄し、

引き込み、味方につける「抜け目なさ」にある。そして、私達に爽快感さえ与える、その大胆不敵な言動、身分の低さにとらわれることない自由奔放さやのびやかさが最大の魅力なのである。

## 参考文献

- 河原隆子（2004）.『対訳 奥様になった女中／悲しみの聖母』. 東京：オペラ読本出版
- 小瀬村幸子（2003）.『モーツァルト ドン・ジョヴァンニ』. 東京：音楽之友社
- 小瀬村幸子（2006）.『モーツァルト コシ・ファン・トゥッテ』. 東京：音楽之友社
- 小瀬村幸子（2003）.『モーツァルト ドン・ジョヴァンニ』. 東京：音楽之友社
- 下中弘（1996）.『オックスフォード オペラ大事典』. 東京：平凡社
- 浅香淳（1993）.『オペラ辞典』. 東京：音楽之友社
- 下中直人（2001）.『クラシック音楽辞典』. 東京：平凡社
- ジョン・ウォラック、ユアン・ウエスト（1996）.『オックスフォード オペラ大事典』.  
東京：平凡社
- 河竹繁俊監修（1990）.『演劇百科大事典第二巻』. 東京：平凡社
- 『万有百科大事典3 音楽 演劇』. 東京：小学館
- アラダイス・ニコル、浜名恵美訳（1989）.『ハーレクインの世界 復権するコンメディ  
ア・デッラルテ』. 東京：岩波書店
- コンスタン・ミック、梁木靖弘訳（1987）.『コメディア・デラルテ』. 東京：未来社
- 礒山雅（2000）.『モーツァルト 二つの顔』. 東京：講談社
- ピエール＝オギュスタン・カロン・ド・ボーマルシェ、石井宏訳（1998）.『フィガロの  
結婚』. 東京：新書館
- 中野好夫（1977）“シェイクスピア、コンメディア・デッラルテ、そしてジャック・カ

口”（『展望』第 218 卷 pp.133-148）。東京：筑摩書房